

ほっとファミリーは養育家庭の愛称です。

**養育家庭(ほっとファミリー)  
体験発表集  
(平成29年度)**



 **東京都福祉保健局 少子社会対策部**

## 「養育家庭(ほっとファミリー)体験発表集」の発行にあたって

都内には、様々な理由で親と一緒に暮らすことのできない子供が約4,000人います。

都では、このような子供たちが、実の親に代わり、家庭的な環境の下で生活できるように、養子縁組を目的としない「里親」(養育家庭(ほっとファミリー))の普及啓発に努めています。

そして、多くの方に養育家庭制度を理解していただくとともに養育家庭(ほっとファミリー)になっていただけるようにと、各区市町村と協力し、養育家庭(ほっとファミリー)体験発表会を開催しています。

この冊子は、平成29年度に開催された体験発表会において、養育家庭(ほっとファミリー)の皆さんに発表していただいた内容を要約し、冊子にまとめたものです。

養育家庭(ほっとファミリー)になろうと思ったきっかけ、元里子の委託されていた時の思い、交流中の思いがけない出来事や慌ただしい日々の様子などが描かれています。

また、委託後の子供の赤ちゃん返りなどの問題や実子と里子の関係、里子を育てることゆえの悩みについても語られています。

しかし、そういった御苦労の中にも、子供が少しずつ家庭になじんで心が通じ合っていくのが実感でき、養育家庭(ほっとファミリー)をやっていて良かったという話や、悩んだ時に養育家庭(ほっとファミリー)仲間や児童相談所の職員など周りの人から支えてもらった話など、養育家庭(ほっとファミリー)だからこそ味わえる子育ての素晴らしさにも触れています。

より多くの都民の皆様にお読みいただければ幸いです。

平成30年9月

東京都福祉保健局少子社会対策部育成支援課長

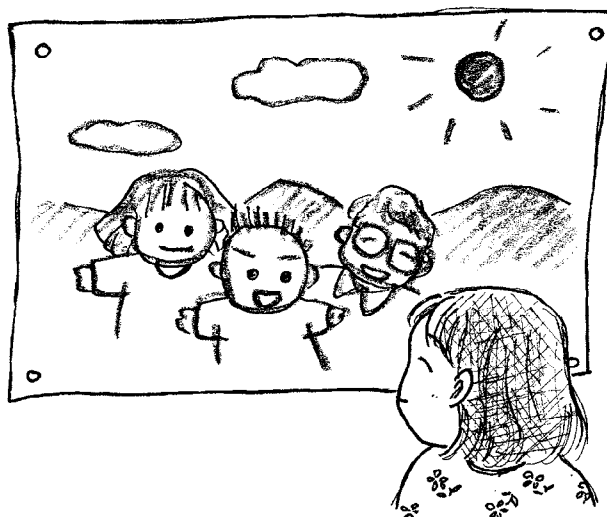
玉岡雄太

## 目 次

1	血のつながりはないが、真の親子を目指して .....	2
2	息子との奮闘日記 ～3人家族がスタートするまで～ ..	4
3	養育家庭に来られて良かった！ .....	6
4	私達の現在・過去・未来 .....	8
5	家族 .....	10
6	ピースサインができただけですごく感動 .....	12
7	子供たちの帰れる場所に .....	14
8	愛しい！君との日々 .....	16
9	里親と暮らした日々と、気づいた事 .....	18
10	今を目いっぱい楽しんで！ .....	20
11	里親になれた私たち .....	22
12	一時保護委託・短期委託を通して感じる事 .....	24
13	私の家族 ～里親家庭だったから経験できた～ .....	26
14	彼女たちに教えてもらったこと .....	28
15	紆余曲折を経て見つけた大人への道 .....	30
16	パパとママになって1年 .....	32
17	思春期と向き合う ～短期間で伝える難しさ～ .....	34
18	ありのままに受け入れる .....	36
19	突然親子として向き合うということ .....	38

## 養育家庭(ほっとファミリー)

### 体験発表会に、ようこそ！！



この体験発表集には、19組のほっとファミリーの方たちの養育体験がつづられています。

より多くの方々に、この養育家庭制度を知っていただき、ご理解と共感を得られることを、何よりも願っています。

そのことが、ほっとファミリーの方と、そこで生活する子供たちを支えることにつながるのです。

## 1 血のつながりはないが、真の親子を目指して

### 【里父】

ファミリーホームをしております〇〇です。唐突ですが、私と家内は見合い結婚です。不思議なもので、男女が知り合って、結婚して家庭を築く。当たり前の世界なんですけれども、全く血のつながりもない、見ず知らずの者同士が家庭というものを築く中で、当然、子供ができます。できない場合もあります。私どものところは、1人目の子が女の子、2人目の子も女の子でした。3人目も女の子で、4人目も女の子でした。

当時、私は居酒屋に勤務しており、朝と夜が逆の生活をしていました。昼ごろ出て、夜遅く帰ってくるものですから、子供との接触が非常に少なかったです。だから、たまに子供たちの休みの日に私が昼ごろ出勤すると、子供たちはにこにこしながら、行ってらっしゃいと言ってくれるのですが、最後に、また来てねと言われます。子供に私がどのように映っていたかよくわかりませんが、これはちょっときつかったですね。

一番下の子が小学生になり家内に時間ができ、これからどうしようかと考えたときに、里親というものを知っていたものですから、私に、里親をやってみたいという話を持ってきました。

その時、私はまだ居酒屋をやっており、里親というものを全く知りませんでした。ちょっと内容を聞いてみたら、行き場がなくなった子供たちに、教育、養護、そういったことが必要なことがわかりました。そのときの家の状況は、女の子ばかり4人でしたけれども、1人ぐらい来てもどうってことないかなと思ひ、里親認定の手続を始めました。

認定がおりて、委託の最初の子が来るまで1年半か2年ぐらいかかったと思います。最初の委託の子は男の子でした。その子は4人きょうだいの末の男の子でした。帝王切開で生まれたときにお母さんが亡くなり、育て切れないということで乳児院に預けられました。うちに委託の話がきた時2歳ぐらいでした。女の子ばかりで、男の子は初めてでしたが、育てられない状況があると聞いたので、即受けました。

女の子の中で一番末っ子の男の子ということで、何の問題もなく健やかに育てられました。うちの子供たちもよく面倒を見てくれました。小学校入学まで見て欲しいとのことだったので、4年間預かり見させていただきました。小学校入学で自宅に戻っていききました。

初めての子が自宅復帰する前に、次の子供を受けました。3歳の男の子で、その子にはちょっと知的障害がありました。今もうちにおります。

その後、当時5歳の男の子で、聾の子供でした。耳が聞こえない子なのですがと連絡があった時、私はたまたま夏休みで家にいました。児童相談所から、他の里親さんの受け入れもなく、施設からも受け入れできないと言われ、行き場がないんです。何とか見てもらえませんかと言われ、電話がありました。子供は児童相談所の一時保護所にいるので会ってもらえないと言われ、私が休みという偶然も重なり、家内と会いに行きました。さすがに、耳が聞こえないということで、受けるかどうかすぐに返事はできませんでした。

うちの子供達に相談したところ、「手話の勉強をしなきゃいけないね」と前向きな返事に、迷いもなくなり、その子を受け入れることにしました。偶然なんです、その子は男女の双子でした。実は、私も男と女の双子なんです。ちょっと因縁めいたものを感じました。

その後、4歳の女の子が来た時点で子供が4人になりましたので、念願のファミリーホームになるための準備をはじめました。居酒屋の仕事を続けながらファミリーホームは無理であると思い、児童養護施設に転職しました。当時、施設がどういうものかと自分なりにいろいろ調べたら、戦後の孤児院が児童養護施設であることが分かり、当時の子供達が置かれていた状況を考えて胸が痛くなりました。

2年前にファミリーホームを設立いたしました。設立後、5人目の16歳の女の子を受けました。この子は緊急一時保護ということで、お昼の3時ごろ電話があり、夜の8時ぐらいに、学校のかばん一つで家に来ました。過去の子供たちもうちに來るときは手ぶらであったり、段ボール一つという形でうちに來ました。それだけでも、小さいながらも、目には見えない傷を負ったまま生きているのだなと感じました。

今年6人目の子が來ました。2歳の女の子なんです、私の年からすれば、孫に等しく、反面、すごく生きがいというか、そんな感覚で接しております。

私は今施設で働き、ファミリーホームをしています。施設とファミリーホーム（里親）との違いですね。子どもが育つには家庭的養護が一番だとは思いますが。けれども、施設でないといけない子も実際にいることも感じております。その中で、逆に里親さんから施設に戻って來る子、そういう子も現実にいることがわかりました。里子を育てることの難しさをしみじみ感じております。私たちは血のつながりがなく、法律的には親権もないのです。子供たちは、実の家族はないけれども、育ったところが里親であるなら、実の親から見放されたことも事実であるし、血のつながりのない里親というところで生活をしているというのも事実であります。その中で、18歳になれば自立していくわけです。

今、預かっている子供たちは、恐らく18歳までうちにいると思います。そうなったときに、それまでに子供たちに何をしてやれるか。個性があるから難しさもあると思っています。しかし里親という形で知り合ったのも縁。私とかみさんが知り合ったのも縁だと思っています。血のつながりのない者同士で家庭を築けるのであれば、血のつながらない親子がいてもおかしくはないと思っています。私たち夫婦の夢は、子どもたちが結婚し、幸せな家庭を築き、孫を連れて“ただいま”と帰ってきてくれる事です。ひとりでも多くの孫が抱けるよう、その日を楽しみに、ひとりでも多くの子どもと“縁”をもちたいと思っています。

## 2 息子との奮闘日記 ～3人家族がスタートするまで～

### 【里母】

里親になり男の子を預かってから3年が経ちました。今日は子どもとの「交流」にスポットを当ててお話をしたいと思います。交流というのは、紹介をいただいた子どもと子どもが住んでいる施設で直接触れ合って、委託に向けた準備をすることです。その期間は状況により様々と聞いていますが、うちの場合は、交流の回数は100日を超えました。

私の交流体験。1日目初対面をしました。18日目お昼御飯を食べさせ、42日目には主人と3人だけでお散歩。67日目には、自宅に息子が遊びに来ました。74日目には自宅にお泊まりをしました。この時は1泊2日でしたが、その後、2泊3日、3泊4日と外泊の期間を徐々に長くして行って、最後、1週間の外泊から長期の外泊となり、そのまま委託になったという次第です。

こうやって思い返してみますと、とても丁寧に段階を踏ませていただいた事が改めてよくわかります。保育士さんのやり方を確認したり、質問したりしながら、子どもとの生活に必要なことは、大体、体験させていただけたかなと思っています。今日はその期間中につけていた、日記の一部を紹介していきたいと思います。

### 『息子との格闘日記』

【1日目】初めての対面。14回目の結婚記念日に初めて息子に会いました。写真より小柄な感じで、写真よりかわいくて。でも、保育士さんに抱っこされたまま、チラチラこっちを見るだけで、近寄ってきてはくれなかった。帰るとき、タッチをしてくれました。それだけで幸せ。「初日にしてはいい線いっているぞ」とお褒めをいただいた。

【6日目】1人での訪問。息子は、保育士さんから離れたところで待っていて、抱きついてきてくれました。廊下を走ったり、絵本を見たり。保育士さんに何回か「抱っこちて」って言うだけで、割と長くそばにいてくれた。保育士さん曰く「遊ば」っていう練習して、楽しみに待っていてくれたそうです。うれしいな。

【9日目】保育士さんがいなくても。前半は保育士さんと一緒に、後半は完全に保育士さん抜きで過ごす。一緒に歌って、踊って、息子も笑顔。また少し前進かしら。

【21日目】皆と一緒に散歩に行けず、泣きわめく息子。保育士さんが消え、さらに号泣。暴れる暴れる。ちょっと泣きやんでもまた泣く。ようやく落ちつくのに10分ぐらい。主人が玩具で遊んでいるのを見ているうちに寝てしまった。熟睡の50分。ほとんど遊ぶことなくバイバイ。泣くのは感情のあらわれだから進歩かな？

(交流期間中はしょっちゅう泣かれていました。だんだん泣かれることにも慣れてくるものなんです。自宅に来てから3カ月ぐらいたったころ、突然、とにかく激しく泣き出して、30分とか、ひどい時にはそれ以上、ずっと泣き続けるという現象が起き始めました。理由が分からないことのほうが多くて、息ができなくなるんじゃないかと思うくらい激しく泣くので、ハラハラしたのを覚えています。)

【25日目】お昼御飯の試練。メニューはスパゲッティミートソース。手づかみで床に

ポイポイ。遊んじゃって反省。バイバイの見送りは少しだけ寂しそう？

【33日目】お昼御飯の試練は続く。メニューは大好きな豚カツ。でも、お味噌汁の具をつかんで投げる。うーん、あと二歩かな。

(御飯に関しては正直、今でも苦勞しています。さすがに食べ物を投げたりは3歳頃に治まってはきましたが、好物だけでおなかがいっぱいになって、完食できない。それでも順調に大きくなってきているので、まあいいのかなと自分を慰めています。)

【54日目】主人、お風呂での試練。1日生活体験。「(主人とお風呂)入る！」って喜んでいたので、裸になった主人を見たら固まり。入らないと言うので、急遽、私が一緒に入った。

(この日以降、主人とはなかなかお風呂に入ってくれませんでした。受託して2カ月ぐらいの温泉旅行で無事に主人と2人きりでもお風呂に入れるようになりました。)

【74、75日目】初めてのお泊まり。お風呂は主人と私と3人で入ったけど、主人と2人で湯船に残されたら泣いてしまった。夜は入眠まで30分以上時間がかかりました。朝は5時半に覚醒して、8時くらいまで遊びながら過ごし、朝御飯。乳児院に戻ると、保育士さんと会えてニコニコ。まっ、仕方ないよね。

(とにかく朝早くから起こされました。受託後、今でも早起きで、その頃は朝8時からベビーカーを押して、当てもなく歩き続けたこともあり。夫婦2人の生活が長かったので、生活が一変し、私は即座に体調を崩してしまいました。この話を里母の間ですると、よくある話だったようで、やっぱりみんな最初はかなりきつかったりするのかなと思った次第です。)

【109日目】卒業です。とうとうこの日がやってきました。事実上、3人家族スタートの日です。正直、今は喜びや、楽しみよりも不安のほうが大きい。不安で仕方ない。でも、息子の笑顔に勇気もらって、主人と力と心を合わせて一歩ずつ家族になっていきたい。親子になっていきたい。涙が出てくる。不安だからか、幸せだからかよくわからない。一人で抱え込まず、皆を頼って発信して、コミュニケーションをとって助けてもらいながらやっぺいこう。何より主人を信じて、主人に甘えて。心穏やかに冷静に、自分の心に正直に。無理しないこと。笑顔を忘れないこと。浮き沈みしないこと。なるようになるからゆるゆる行きましょう。

これが最後の日記です。心穏やかに冷静にというのは全然無理でした。笑顔になんか全然なれなくて、常に眉間にしわ寄せて。そういう毎日でした。

でも、3年2カ月後。私には仲間がいます。主人や家族、友達や里親仲間はもちろん、児童相談所や子どもが暮らした施設の皆さん、他にも里親を支援してくださる沢山の力強い味方。一人で抱え込まずに、SOSを出して、話を聞いてもらって、ガス抜きして、そんな感じで何とかやっています。息子の成長を見守ってくれる人達が沢山いる。その人達の存在は本当に心強くありがたいものです。日々そんな仲間を支えられて・・・それでも心が折れそうなときは、この日記を読み返して、初心に戻って乗り越えています。



### 3 養育家庭に来られて良かった！

#### 【元里子】

僕は生まれてから乳児院で育ち、3歳の時に児童養護施設に移りました。小学3年生まで児童養護施設で過ごし、小学4年生の時に養育家庭にいきました。

今は高校を卒業して働いて2年目になります。

小学校4年生の時に里子になりましたが、その時に、自分自身は里子になることへの心配は特になく、一つ上に里子の姉がいたので、その姉とゲームをしたり、里親さんが飼っている犬と遊んだりすることが楽しかったのです。本当に遊ぶことの楽しみばかりで、里子になるということについての心配などはありませんでした。

養育家庭で生活をしていて良かったことは、普通の家庭みたいな環境で過ごせたことです。困ったことというのは、一般家庭の皆さん、普通の家庭で育った方々と自分は特に変わらないんじゃないかなと思います。自分は里子だから他の子とは違うというふうな里子としての意識はなかったもので、一切困りませんでした。

自分の中では、養育家庭と児童養護施設は、大げさに言うと日本とアメリカぐらい違うんじゃないかなと思います。児童養護施設は、とにかく自由がありませんでした。小学校から帰ってから、普通の子はそのまま友達と遊びに行ったり、何か買い物に行ったりすることもできるんですけど、児童養護施設だと小学校から帰った後は施設から外に出てはいけなくて、施設の中で遊ぶことしかできませんでした。とにかく不自由なことが多かったことが、自分は本当に嫌でした。

養育家庭は、学校から帰ってからもすぐに友達と公園とかに遊びに行けて、コンビニに好きなお菓子を買に行くこともできて、とにかく自由というか、色々なところに行って色々な経験をさせてもらいました。また、施設だと、年上のお兄さん、お姉さんが毎日テレビのチャンネルを独占していじっていたので、自分の好きな番組は一切見ることができなかったんですが、養育家庭だと自分の好きな番組が見れて、本当にとっても嬉しかった記憶があります。

中学生、高校生になってからは、普通の子と同じく反抗期に入ったりして、本当に毎日くだらないことで里親さんとけんかをしていました。学校に行くぎりぎりの時間に起きて怒られたり、食べ物の好き嫌いのこととか、本当にくだらないことで毎日のようにけんかをしていました。でも、そういう怒ったり怒られたりの関係は、自分は本当に家族のように思っていたし、普通の家庭でもこういうことがあるだろうなと思います。その時は、里親さんに怒られて「こんな家を出ていきたい」とか口では言っていましたが、本心では全く思っていないませんでした。

措置解除についてですが、自分は高校を卒業してから就職して会社の寮に住むことになりました。措置解除後は、里子と里親の関係ではなくなってしまうと聞いていましたが、一つ上の里子の姉も措置解除後に里親宅から出た後も、毎週のように里親さんの家に帰ってきて、子供たちと遊んだり、御飯を一緒に食べたりしていたので、自分もそん

なに措置解除のことは意識していませんでした。里親、里子、家族みたいな関係がなく  
なるわけではなく、普通の一般家庭のように里親さん宅を実家みたいな感じで帰ってこ  
れることを知っていたので安心していました。後は、卒業後の仕事のことで頭がいっぱ  
いだったからそんなに気にならなかったのかもしれない。

でも、実際に措置解除となった後に、結構困ったことが多かったです。国は18歳で  
大人だからといって措置解除になるのかもしれないのですし、最近になって選挙権も1  
8歳からになりましたが、やっぱり世の中は18歳を大人だと見てくれないんですね。

最近も新しいiPhoneが発売されて、自分も携帯の機種変更をしたいなと思って、携帯  
屋さんに行ったら「20歳じゃないから保証人が必要」と言われてしまいました。でも、  
措置解除後は里親ではなくなっているので、今、保証人というのが僕には一人もいない  
状態になるんですね。今も19歳なので一人でローンを組むことができませんが、ア  
パートを借りるにもやっぱり「身内の保証人が必要」と言われてしまって、結局自分  
では借りることができませんでした。そういった面で、後々になって、措置解除は20歳  
にしてもらったら良かったなという気持ちがあります。僕は高校を卒業して一人暮らし  
というか寮に入ったのですが、いくら就職するからといっても、何年か里親さんのと  
ころに住んで、里親さんのところから仕事に行けたらよかったと思うのが僕の本心です。

これから里親さんになりたいと思っている方へのメッセージをお願いしますと言われ  
ているのですが、僕は里親さんのところにいった時に里子の姉がいたから楽しかったな  
と思っています。1人で里親さんのところに行っても、やっぱり子供が1人だけだつた  
ら、施設には沢山友達もいたので、施設のほうが楽しいんじゃないかなと思ったかもし  
れません。里親さんが2人の里子を預かることは難しいとは思いますが、僕は里親さ  
ん宅にペットの犬がいて、その犬と遊ぶことが本当に心が安らいだので、2人預かる  
というのが難しい方は、ペットがいるといいんじゃないかなと思います。

最後に、結構施設のことを悪く言ってしまっていてところがありますが、施設で育つのと  
里親さんのもとで育つのは、本当に経験できることが全く違うんです。やっぱり父と母  
と呼べる存在ができることや、帰る家ができるということは本当に大事なことだと思  
います。

今施設にいる子が家庭で生活できるような環境がもっと増えていったら、僕もすごく  
うれしいなと思います。



## 4 私達の現在・過去・未来

### 【里母】

家族構成は、主人と私、4年生の女の子Eちゃんと幼稚園年中の男の子K君の4人家族です。最初の里子Eちゃんが来てから6年が経ちました。里親になったきっかけは、両親が里親だったことです。私は5人兄弟の次女で、大学1年生の時に最初の里子が来ました。3歳の女の子の受託が決まった時、家族みんなで夢中になって可愛いがったのを覚えています。その後も大体1年ごとに兄弟が増えていきました。里子には、いろいろな子がいますが、家族として過ごしていると、さらに可愛くて大事になってくるのです。正直、実の兄弟たちより里子たちの方をより気にかけていたので、家族って血の繋がりではない事を感じました。主人は、交際時から子供達を遊びに連れて行き、結婚後も子供達が宿泊にきました。そんな体験を通して、いつか里親をやりたいと言い出したのは主人の方でした。私は、出産や子育てが一段落してからと思っていたのですが、その後、結婚して7年、子供に恵まれなかった事もあり里親になる決意をしました。実は、レスパイトをするために既に里親登録をしていたので、決心してからは早かったです。

ある日、3歳の女の子Eちゃんを委託してみないかという連絡がありました。初対面の時、多くの大人が急に入ってきて緊張したのか、強張った表情で視線を下に向け、同じ行動をひたすら繰り返していました。最初の面会の時も、とても硬い表情で、私たちの顔を見ず、一言も話しませんでした。彼女主導の遊びにつき合ったり、抱っこして連れ歩いたりしていると、可愛らしい笑い声を立てたり、おしゃべりをするようになっていきましたが、それでもかなり緊張していたと思います。最初の時は、張り切って一緒にお買い物に行き、食器類をそろえました。楽しく遊び、一緒に御飯を食べ、お風呂にも入り、絵本を一緒に読んでから寝ると、とても良い子でした。ところが、お泊まりの2日目から急変しました。夕飯を楽しく一緒に作ったのですが、全く食べようとしません。また、入浴したがらず、入るとなかなか出ようとしません。夜は無理に寝かせようとすると痲癩を起し、尋常じゃない絶叫という感じの大泣きで、手がつけられませんでした。その行動は何ヶ月も続きました。夜泣きもあり、少しの物音で目を覚まします。寝る時は抱きついたらままだので、彼女が上に乗ったまま朝まで寝てしまった事もよくありました。乳児院では、肉の咀嚼は苦手だが偏食もなく何でも食べると聞いていましたが、お菓子や好きな物以外は食べず、偏食は根強く続き、給食でも苦勞する日々が続きました。色々な物が食べられるようになったのは最近の事です。また我が強く、痲癩を起こしては30分ぐらい大泣きし、叫び続けた後でやっと落ちつくという事が毎日のようがありました。その一方「明日も、その次も、その次のその次もずっとここにいられるの？」と繰り返し聞いてきました。甘えん坊で四六時中抱っこをせがむので、腕、腰は慢性的に痛かったですが、可愛くて楽しい子でしたし、子育て経験のない私たちには、想像以上に楽しいものでした。最初、夫婦二人、大人だけで7年間も自由気ままにやってきたので、子供中心の生活が、私に務まるかが一番の心配事でした。しかし、窮屈を感じるど

ころか、すんなりと3人の生活に馴染め、私自身驚きました。一緒に暮らし始めると、Eちゃんは増々可愛くて、かけがえのない存在になっていきました。我が強くわがままですが、素直で屈託がなくユーモアのある子で、私たちに対して愛情を真っすぐ向けてくれます。そして徐々に表情も柔らかく豊かになり、絶叫した泣き方から様子を伺うような泣き方へと変わっていき、信頼関係ができたようで、とてもうれしい変化でした。

Eちゃんが小学校1年生のころ、1歳の男の子K君の委託の話が来ました。Eちゃんは弟が欲しいと大乗り気で、Eちゃんの成長への期待もあり受託しました。K君は、大人しく穏やかで少し消極的な子でした。なかなか慣れず、4ヶ月の交流を経て、我が家にやって来たのですが、不安でいっぱい顔をしていました。1日目、車に乗るのを嫌がり、泣き過ぎて吐いてしまいました。入浴を促すと、必死になって部屋の隅に逃げ、涙を溜めた目で見つめてきました。就寝の時は、大声で泣き続け疲れて眠りました。彼もこんな感じが毎日続くのかと思っていたら、2日目には機嫌よくお風呂に入り、眠るのもスムーズで拍子抜けでした。とても素直で愛らしく、車に乗るのも1週間で慣れました。小さいからなのか、適応が早く家ではすっかりリラックスして楽しそうになりました。少し叱ると目に涙をため、泣くのを精いっぱい我慢しているような顔をしましたが、最近では、叱られるとすぐに泣くようになりました。問題はEちゃんとの関係でした。

弟ができると喜んでいたEちゃんですが、K君との初対面では、K君を抱っこするのを邪魔してきました。結局、全く触れ合えず、帰り道では、弟ではなく姉か兄が良いと言い始めました。K君が委託されてからも、本気になって私の膝の奪い合いをします。擁護できない意地悪をしたり、K君を褒めるとEだって出来ると言い、4歳と小4になった今でも張り合ったりします。お姉さん風を吹かせ、K君に嫌がられると怒り、逆に寄っていくと突っぱねます。また散々、意地悪をしているのに、自分の友達にK君が懐くと怒ります。「Eだけのママだったのに、3人家族がよかった、K君はずるい」今でもこの台詞を言っています。Eちゃんはまだ満たされていない気持ちが強く、K君の全てを羨ましがり「2歳になりたい、Eだって2歳の時に来たかった」と言うのです。EちゃんにとってK君が来たことは良かったのだろうか。もう十分かと思っていたけれども、もっと満たしてあげた方が良かったのではないだろうかと思ったり散々悩みました。そんな2人の関係に改善が見られたのは、K君が来て8ヶ月ほどたち、夏休みが終わった頃でした。2人がずっと一緒にいたことが幸いしたのか、いつの間にか仲良くなっていたのです。今でも喧嘩し、意地悪もします。でも、仲よく遊ぶ時間が増え、お姉ちゃんらしく面倒を見ることもあり、無意味な意地悪も減り、兄弟らしくなったかなと一安心です。

現在、K君はとてもやんちゃですが、とても優しい子です。話し方はEちゃんそっくりになってきました。Eちゃんの甘えん坊は相変わらずで、現在も一人で夜寝る事も出来ませんが、成長を感じます。これから思春期を迎え、難しい年頃になっていきますし、真実告知など、考えることは増えてくると思います。それでも、2人と一緒に過ごせることが嬉しくて、里親になって本当に良かったと思っています。

## 5 家族

### 【元里子】

私は、生後すぐ乳児院に入り、その後、児童養護施設で生活し、小学校入学前に里親さんと出会いました。その頃の記憶は、とても衝撃が大きく、強く印象に残っています。

当時の私は、施設の担当職員が大好きでした。初めて宿泊をした日、私は施設のことを思い出し泣いていました。涙がとまらず御飯が食べられなかった私に、里親さんの実子のお兄さんが私を屋根裏部屋に連れていってくれました。そこできれいな星空を見た時、なぜかすごく安心して不安がすつとなくなりました。そして、夜寝る前に里親さんのお父さんが、私が大好きだった『エルマーとりゅう』を一日で一冊全て読んでくれました。

私が里子になり、とても悩んだことがあります。それは、里親さんのお母さんを何と呼ぶかでした。私は、施設の職員の方をママと呼び、実の母をお母さんと呼んでいました。しかし、里親さん宅の里子達は、里親さんをママと呼んでいたのです。ママというのは施設の職員の方一人だと思っていたので、ママと呼ぶのにとっても抵抗がありました。そこで、実の母とはあまり会っていなかったのも、お母さんと呼ぶことにしました。

小学校に入学し、新しい友達と出会い、毎日が楽しくて仕方ありませんでした。また、里子や里親さんの実子も多く、毎日が冒険のようでした。私が周りとは違う事で抵抗が芽生え始めたのは、中学生の時でした。きっかけは、里子の妹と私の外見が全く違う為、「あれが妹なの？」と言われた事でした。見た目は違っても本当の妹のように思っていましたし、私にとって自慢の妹でした。それから自分の環境について考えるようになりました。丁度、第二反抗期と重なり、同じ里子への不満の思いが出てきて「私より可愛いがり過ぎじゃない」「同じ点数の私の事は褒めないのに、あの子の事は褒めて」など、沢山の不満を口に出しました。しかし本心では、いつも私のことをしっかり見てくれていて、優しく温かな眼差しを向けてくれている里親さんのことはわかっていました。

高校に入学すると、この子なら受け入れてくれると思えるかけがえのない友人ができました。しかし、高校2年生の時に別々のクラスになり、それからとてもつらい時期が始まりました。私の人見知りは激しくなり、教室での休憩時間は音楽を聞くか寝て過ごしました。「おはよう」と言う友達がいなくて、学校に行く意味をすごく考えました。特に高校3年生の秋までは、とても辛かったです。学校には行きたくないが、「行かないのは負けだ」という思いがあり、遅刻してでも行っていました。

私が極度の人見知りになったのは、家族の話をする事に抵抗があったからです。初対面での会話では、家族構成を聞かれる事が多く、特に「写真を見せて」と言われ、見せた後は「似てないね」とか、気を使われ「〇〇が似ているよ」と言われる事がとても嫌で、人と関わることを避け始めました。その時期の私は、家での態度も酷く、今でも思い出すと申し訳ないと思います。しかし、そのような時でも、里親さんはいつもおいしい御飯とお弁当を作ってくれて「行ってらっしゃい」と言って送り出してくれました。

高校3年生の夏休みは、アルバイト、大学推薦用及び奨学金用の書類作成、塾通いと、忙しい日々が続きました。同級生が受験勉強に励んでいるのに、私は作文を書いているという事が遅れをとっているようで、葛藤があり、周りの友達を羨ましく思いました。また、アルバイトをしても、私はこのお金に手を付けず、大学に進学してひとり暮らしをするために残しておかなくてはいけない、ということがとても辛かったです。奨学金で給付のものは、選考があるために手を抜くことはできませんでした。たくさん文句を言っていた私をいつも励ましてくれたのも里親さんでした。そして、一緒に山ほどある奨学金の書類を作成してくれました。

大学入学と同時にひとり暮らしを始めました。私は高校3年生まで、いつも二人部屋でした。高校生の時、一人の時間が欲しいと思うようになり、大学入学後は、憧れのひとり部屋で憧れのひとり暮らしでした。しかし、ひとり暮らしを始めてからは、掃除、洗濯、家事と毎日やることが沢山あり、アルバイトもしなくてははいけません。また奨学金の事もあるので、勉強も手を抜くことができません。今まではおいしい御飯を何もせず食べていただけでしたが、ひとり暮らしを始めてから、今日も麺、明日も麺、毎日麺と麺類生活になってしまいました。食生活の乱れからか、以前よりも風邪を引くようになり、高熱を出す事も増えました。ある日、車で往復1時間半かけてお母さんがお見舞いに来てくれたことがありました。わざわざ私のためにと大好きな果物まで持って来てくれたのに、本当は掃除も洗濯も家事も山ほど溜まっていたのに、「何にもしないでいいから早く帰って」という態度をとってしまいました。本当は、とっても嬉しかったです。

一人暮らしを始めて、客観的に自分が今までいた里親さん宅の環境を見るようになりました。私には今、2人の妹がいるのですが、その妹たちの家での態度を見ると、何を怠けているのだとすごく思います。しかし振り返ると、自分も同じように甘えていたなと思いました。今は、甘えられる環境がある妹たちがとても羨ましいなと思います。

私は大学生になってから、自分が福祉を学んでいるということもあって、家の事を余り隠さなくなりました。また、人見知りも徐々に消え、大学ではたくさんの友達ができました。大学で出会った友達に家の話をよくするのですが、その時に私の友達はこう言ってくれます。「〇〇のおうちは楽しそう。〇〇から聞くお父さんとお母さんってすごく素敵な人なんだろうね。いいな、羨ましいな。」と。私にとって家族は何にも変えられない大切な存在であり、自慢の家族です。血縁関係がないにかかわらず、新しくやってきた里子を自分の子供のように愛している里親さんを尊敬の眼差しで見えています。今では私も、今日からこの子は妹だと思おうと、こんな素敵な家でこの子はどんな子になっていくのだろうと思うようになり、胸がいっぱいになります。それは、私が今、こんな素敵な家で育つことができたことを誇りに思っているからです。毎月のようにある誕生日会。こんなふうに豪華に祝ってもらえるこの幸せを大切にしたいと思います。そして、私たちのように社会的養護の中にあるたくさんの子供たちが温かい家庭と出会えたらいいなと思っています。

## 6 ピースサインができただけですごく感動

### 【里母】

どうして養育里親になろうと思ったのかという経緯ですけれども、不妊治療を始めて、金額を決めてスタートしたんですけれども、これ以上は無理かなと思ってきたところに、養子縁組を考えてみようと思ひまして、児童相談所にお電話をしてみました。子育てをしたいという理由であれば、養育里親でもいいんじゃないですかと勧められて、そのまま研修を受けることにしたというのが経緯です。研修の中でグループホームというところに2日間実習に行きました。3歳から上は高校生の子まで6人の子供たちが職員さんたちと暮らしていました。そこで子供たちにすごく親切にしてもらって、一緒に遊んだり御飯を食べたりしたんです。小学生の子供を3人、私が任されて、公園で一緒に遊ぶという経験をしたのですけれども、それまで特定の子供の全責任を自分が負うという経験はもちろん一回もしたことがなかったのです。私が見ていないとけがしちゃうのかもしれないとか、そういうのを考えたこともなかったのです。まあまあ幸せな感じでした。

職員さんもすごく若い方だったのですけれども、子供の気持ちを察して行動するような感じで、本当に家族同然のように見えました。本当に温かいところで、そこでがらっと養育里親に対するイメージが変わりまして、こんなに楽しいんだったら、もう絶対やろうと思ったんです。

2歳半の男の子のお話をいただきまして、そこで改めて、どうして血のつながっていない小さい子供を引き受けるのかというのを考えることになって、私自身、幼少期に両親が離婚してしまっていて、初めて実の父親に会ったのが二十歳を過ぎてからだったのです。それまではどんな人なんだろうなという感じで、思春期はちょっとは悩んだし、その後再会して解決するんですけれども、自分にとっては解決済みというラベルを張って、押し入れにしまってあるような感じのことがもしかしたら役に立つのかなというふうに考えました。

交流は週3回の面会から始めて、主人も私も張り切っていて、とにかく子供に楽しんでもらおうと思って、ありとあらゆる水族館、動物園、テーマパークとか、いろいろ行ったんですけれども、今考えてみると、子供のほうは慣れるのに精いっぱい、特におもしろい思いがしたいというのが一番じゃないわけで、そんなに必要なかったかなってちょっと今反省しています。そのときも、乳児院の職員さんたちがよくフォローしてくれました。交流中の子供の様子なんですけれども、結構神経質で、雨の日に袖が少し雨に濡れただけですごく気になってしょうがなく、結構怖がり、犬も猫も怖いし、アリの怖いみたいな感じで、全てを怖がるような感じでした。一番困ったのが、何をしゃべっているのか。宇宙語なんですよ。これはどうコミュニケーションをしたらいいのかなと悩んでいたときに、ある日突然、その宇宙語が理解できるようになりました。私が絵本を読んでいたので、多分、私に気を使って、寝るのを我慢しているんですよ。それで、絵本が終わるとすぐ寝るという感じです。乳児院の食事がおいしく

て、豪華だったんですよね。乳児院の食事の写真を何十枚かいただいでいて、それを見ながら初めは必死につくっていたんですけれども、挫折して、普通の家庭の食事でもいいやと思ってつくったりもしていました。

今思うと、交流時の子供の様子というのは、気を使っていたんだなと本当に実感します。全然わかっていなかったなって思っちゃうんです。

乳児院は男性の方が少ないせいか、主人にはそんなになつていなかったです。委託後2カ月ぐらいしてから、交通事故に遭い左足のつけ根を骨折しちゃって、子供のほうはもといた乳児院のほうに戻ることになりました。入院しているときに週に1回、主人が連れてきてくれたんですけれども、子供の様子がだんだん変わってきて、ちょっとそっけなくなっていくんですよね。退院したら子供がかなり里父になつていて。主人はいつも仕事に行っちゃうんですけれども、そうすると、おとうたんはと言って泣き崩れて、以前では考えられなかったことが起きているという感じです。私はけがをしてるしものもらいできて、風邪引いて、子供もそんな状態で、三重苦ぐらいのつらさでした。そのときに児童相談所の職員の方が手厚くフォローしてくれて、何か悩みを話すとすぐに飛んできてくれて、悩みを聞いてくれるという、本当にそれが一番助かりました。それがなければ諦めていたのかなと今でも思います。何とか頑張って、トンネルを抜けたような感じで、4月から幼稚園に行っております。

周囲には「養育里親って何のメリットがあるの?」というふうに言われたりしました。小さい子供の面倒を見てあげるとか、育ててあげるというふうな見方だと、やっぱり何のメリットがあるのと思っちゃうんです。お互いさまだなと思います。メリット・デメリットというふうにやる前は考えていたけれども、子供の成長は本当に励みになるし、例えばピースサインができただけですごく感動するということをやる前は考えていなかったんですよね。こちらにとってのメリットははかり知れないなというのをすごく感じます。私の自分の話をすると、幼稚園のときに2番目の父親が来るんです。その義理の父親と母親がケンカをしたときに、気まずい雰囲気の流れ、私が幼稚園児ながらフォローしようとし、お父さんは何で白い靴下を履いているのと言いかけたところを、義理の父親が、おまえまで俺を責めるのかみたいな感じで話を遮っちゃって、義理の父親は、自分と血がつながっていない子だから、やっぱり私のことを信用していないわけですね。すごく誤解が生じやすいんじゃないかなと思いました。実際に保育園に子供が行っているときに、保育園の先生がすごく大好きというふうに私に言ってきて、私はそのときすごくショックで、その夜、眠れなくて。お子さんを持っている友達に言ったら笑われて、そうなんだと思って。里親側のそういうのもあるのかなと思ったりします。今は普通の平凡な日々を過ごしております。けさも玄関先で、水筒を持った、帽子を持った、コップを持った、お弁当を持った、完璧だと思って幼稚園に行ったら、リュックサックごと自宅に忘れて慌てて取りに行ったり、そういう感じです。私でもできるんだから、もっとできる人はいっぱいいるんだろうなと本当に思っています。



## 7 子供たちの帰れる場所に

### 【里母】

実子が2人います。2人とも大学を卒業と同時に仕事の関係で家を離れ、ひとり暮らしをしています。あとは雄ネコが1匹と、二世帯住宅なので、同じ建物内に夫の母がいます。きっかけは、実子たちがまだ小学生のころ、フレンドホームのリーフレットを見て、私たちにもできることがあると思ったのがきっかけです。下の子が大学生になったときに、フレンドホームに登録しました。3年後に3歳9カ月の男の子と出会い、6歳になるまで交流させていただいたのですけれども、別の施設に彼が移動しなくてはいけないということで、会えなくなってしまいました。あとから彼は自分も里親宅へ行くのかなって思っていたことを知り、施設で暮らす子供たちが制度の中で傷ついている姿を目の当たりにし、そのつらさが私たちの背中を押したんじゃないかなと思っています。自分の帰る家がない子供たちの帰れる場所になりたいなと思い、里親に登録しました。

登録してちょうど1年後の夏に、一時保護所にいるAちゃんが紹介されました。初めは2、3年の期間ということだったのですが、とにかく早く里親を始めたかったので、すぐに受けました。パートを退職して、やるぞという感じでAちゃんと児童相談所で面会しました。交流期間は短く面会が3回で、我が家に日帰りした翌週にお泊まりをして、そのままうちの子になりました。自分でも何が起きているのかわからない慌たしさでした。Aちゃんは来るなり、私たちを「ママ、パパ」と呼ぶような子でした。よくおしゃべりをして、動いて、明るくてかわいらしく、初めて会う人にもあまり警戒心がなく、気に入った人の膝にはすぐに座ってしまいました。家の中では、「抱っこして」って言うてきたり、時々「バブバブ」って赤ちゃん返りをし、今までの暮らしがどんなだったのかなって気にしながらも、あるがままを受け入れました。すぐに夏休みだったので、地域の夏祭りに片っ端から連れて行きました。近所の方々も浴衣を貸してくれたり、お下がりをごさったり、とても親切にしてくれました。小学校の中にある地域子ども館や、学校のプール指導にも参加し、ラジオ体操にも一緒に行って、毎日を過ごしました。そのおかげで早くお友達もできて、新学期の生活がスムーズにスタートできたと思っています。実子が通っていた小学校なので誤解があっても嫌だなと思い、担任の先生にも相談して、保護者懇親会のときに簡単な挨拶をしました。養育家庭に登録して、その縁でAちゃんがうちの子供になって、一生懸命頑張っているということと、家族になったばかりの私たちなので、よろしく願いますという挨拶でした。地域でもみんなから見守ってもらえる子になってほしくて、知り合いに会うとこちらから挨拶して紹介するようにしていました。

暮らし始めると毎日が発見でした。好きな食べ物は、「納豆と梅干し！」と言うので、安心するだろうと思って食卓に出していましたが、もしかしたら今までそれだけが食事だったのかなって、気がついてやめました。偏食、味の幅が狭いというのは、里子には共通のことかもしれないのですが、味覚は極端で、甘いものが大好きでした。お茶は、

ウーロン茶は飲めるとのことで、紅茶やほうじ茶をウーロン茶だよと言って出すと飲んでいました。思い込みというか、食べたことがない物への警戒、抵抗感があったんだなと思いました。時間も「これフルコース？」と思うくらいの長さで、朝食でも1時間ぐらいかかりました。6時半に起こしても登校がぎりぎりになるほどゆっくり食べていました。歯の生えかわりで前歯が全然なく、ほかの歯もでこぼこで、かみ合わせが原因とも最初は思ったのですけれども、たくさん一遍に頬張ったり、口の中にいつまでも残っていたりということもあったので、飲み込みに問題があるのかなとも考えました。給食もいつも最後になってしまって、随分苦勞していたようです。口に入れる量を教え、飲み込んだ後「あーんしてみて」と、赤ちゃんのようなところからスタートしました。こころの問題もあってのことだったみたいで、子供を育てるときに、見えないものを見る目、聞こえないものを聞く耳などと言いますけれども、様子をよく見て、察してあげなければいけないと思いながら育てていました。歯列矯正を始め、私たちにできることは、やってあげたいと思っています。

実子たちも家を出てから来た妹という感じでしたが、家族旅行を企画すると参加してくれて、お兄ちゃんお姉ちゃんをしてくれています。家族の協力がすごく大事だなと思っています。また、学校、学生ボランティア、イベント参加など様々な機関と連携し、支援とつながることも大事だと思っています。

実子を育てた経験があっても、実子の子育てとは全く別もので、新しいチャレンジになるんだということを今一番感じています。7歳まで他の環境で育ったAちゃんの抱えている問題もあり、言葉かけ一つをとっても我が子とは違うということです。勉強会に出たり先輩の話を聞いたりすることが大事だなと感じています。

実子がいるいないということだけでなく。実際に里親サロン等で他の家族と関わってみると、実母と交流があったり無かったりと、里親子の形はそれぞれ状況も様々で違うことを実感できるでしょう。でも、こうでなければいけないという正解は無く、子供の幸せを願う気持ちは一緒ですので、もっともっと、里親の輪も広めていきたいと思っています。

子供のいる生活は本当に楽しくて、毎朝登校する姿を見送るときとか、小さな子供の洗濯物を干すときとか、本当に幸せだなという気分をたっぷり味わわせてもらっています。結婚記念日に、「きょうはパパとママの結婚記念日だよ」と話したら絵を描いてくれました。とても上手で、誕生日にも描いてくれました。とても上手で、市内の小中学生の作品展にも選ばれたお芋掘りの絵は、家族も絶賛で、おばあちゃんが自分の部屋に飾っています。いつか我が家も、子供たちの帰れる場所、いつでも帰っておいでと言えるような場所になればうれしいなと思っています。これからもたくさんの里親仲間と支え合って、子育てしていけることを心から願っています。

## 8 愛しいI君との日々

### 【里母】

私たち夫婦は長い間不妊治療を続けていましたが、やっと妊娠して喜んだのもつかの間、流産をしてしまいました。しばらくしてどんな形でもいいから子供と接することができないかなと思い、乳児院でのボランティアに通うようになりました。とにかくかわいくて、たくさんの元気で笑顔に囲まれ、私は救われました。そんな生活が何年か続いた頃、乳児院でRSウイルスというのがはやりまして、7カ月ぐらいの男の子が、たまたま通りかかった私に抱っこしてもらいたくて、発熱で真っ赤な顔をしながら手を差し出して、にこにこするのです。それを見た時に、本来の家庭であればそんな笑顔を作らなくても、お母さんがずっとそばにいてくれて、抱っこしてくれたり、甘えさせてくれたりしてくれるのに、そういうことができない、こういう子たちのそばにずっといて抱きしめてあげられる人になりたいなど。それが里親になろうと思ったきっかけでした。

その後、里親登録をして、今から2年半前、片道2時間かかる乳児院に通って、まだ2歳になったばかりのI君に出会うことができました。結構人見知りで、初めは、先生にべったりくっついている状態で、目も合わせてくれないし、顔を見てくれることもないし、帰りに「ばいばい」すらしてもらえないのです。少しずつ慣れてきて、何週間かしたら、先生が一回抜けて、二人きりで遊ぶ時間を作ってくれるようになったんですね。そうしたら、ちょっとずつ笑顔を見せてくれて、お話もしてくれて、一緒に遊んでくれてというふうになって、もう帰りは嬉しくて、2時間の道のりも全然気にならないくらい。「ああ、また早く会いたいな」という感じで交流を進めていきました。

ただ、主人との交流はすごく手こずりました。乳児院には男性がほとんどいないので、男の人に免疫が全然なくて、警戒心が尋常ではなかったのです。なので、主人と2人で行く時は、まず私が一緒に遊んで、I君のテンションをマックスに上げた状態にして、そこに主人がおもちゃを大量に持って、おもちゃで釣る感じで登場するという作戦で、どうにかちょっとずつ警戒心を取り除いて、距離を縮めていくことができました。それでも主人がI君の声を聞くまでは1カ月以上かかり、しかも最初の言葉が、消え入りそうなウィスパーボイスで「アンパンマン」と言っただけだったのです。

家に来てからもしばらくは、お風呂に入りたくないとか、乳児院で着ていた服以外のものは絶対着ないとか、靴も履かないとか、見たことないものは食べないとか、大泣きする騒がしい日々が続きました。特にお風呂は、乳児院では大人が洋服を着た状態で子供たちを流れ作業で入浴させていたので、大人の特に男の人の裸を見たことがなかったため、主人とお風呂に入るのには時間がかかりました。今はお風呂が大好きで主人と銭湯に行くのを楽しんでいます。

洋服も前の日に「明日これとこれを着てくれる？」と言って、本人が納得すると着てくれるし、洋服とか靴とかを一緒に買いに行って選ばせると、それはすんなり自分のものだとは抵抗なく受け入れてくれたりするので、この子はちゃんと説明したら理解できて、

それがないと納得しないまま受け入れることはできないんだなというのがわかり、それからもどんどん、2歳だろうが、わかる限りで説明をしていって、そうしたら食べ物も好き嫌いもなく本当によく食べて、人見知りもしなくなり、寝起きも寝入りもすごくよくなって、本当に手がかからない子になった…と書いていたら、そんなに甘い訳がなく、ちょうどイヤイヤ期と試し行動の合わせ技で、少しでも気に入らないことがあると、物は投げる、全力で泣き叫ぶ。それも何か超音波みたいな音で、耳をつんざくというのはこういう音なんだろうなというぐらい、壁にひびが入るんじゃないか、鼓膜が破れるんじゃないかと何回も思ったぐらいで、本当にすごい声で、しかもなぜか「お母さん嫌だ！」と言うのを必ず末尾につけるので、これは絶対いつか通報されるなど思いながら、今のところ通報されていないので大丈夫だったみたいなんですけれども。

そんなのが毎日続いていって、その時にボランティアで行かせていただいていた乳児院の先生に相談したり、私の母親が近くに住んでいるので、そこで協力してもらったり、姉家族とかにも協力してもらって、みんなからの愛情をたくさん受けて、入園前にはどうにかちょっと落ち着いてくれました。当時2年生だった姉の息子も、一人っ子でわがままな子だったのですが、I君が来てからすごくお兄ちゃんになって、本当に兄弟みたいになって、周りがみんな、そういう意味では成長できたというか。

今、幼稚園に行っているのですが、すごく人気者で、やさしいからと、しょっちゅうラブレターをもらって帰ってきます。みんながI君スマイルと言うぐらい、本当にいつもにこにこして、きらきらした目で「お母さん、大好きだよ」と毎日言ってくれますし、この間も、ちょっと私が具合が悪くて横になっていたら、ずっと「お母さん大丈夫？大丈夫？」と言いながら頭をなで続けてくれました。

この制度があって本当によかったなと思っています。血は関係ないんだなと。自分が産んだんじゃないかと思うぐらい、自分の中では本当に愛しいと思っています。この制度がもっと多くの人に広まればいいなと思っています。

実はこの子の前にも一回、6歳になる1週間ぐらい前の子を委託したことがありまして、すごく展開が早かったのですが、正直言ってすごく難しかったです。その子自体も人間形成されているし、ちょっとグレーゾーンのところがいろいろあったので、私なりにも一生懸命頑張ったんですけど、周りが「もうやめときな」と言うぐらいげっそりしてしまい、それでも頑張ろうと思ったら、今度は家族も「ちょっと、もうやめて。それ以上続けるなら、私たちはもう面倒見ないよ」というふうにまでなってしまうと、結局、これ以上続けることは、多分この子のためにも、私たちの周りみんなにもよくないなというので、申し訳ないのですがとお断りして、引き上げという形になりました。もし引き受けて、合わないとか無理だなと思って、無理して続ける必要は多分ないと思うんです。そこで「ごめんなさい」と言うのも里親としては必要な選択なのではないかと。ただ、その後こうやってI君と出会えたりするので、一回やってダメだったからもうダメだというのではなくて、前向きに頑張ってやっていただけたらいいかなと思います。

## 9 里親と暮らした日々と、気づいた事

### 【元里子】

今は21歳で、学童保育所の保育士として働いています。3歳になって、私はまだ乳児院にいたそうです。色々毎日、試行錯誤して、母は、私に会いにきてくれたのだと思います。私は乳児院にいたこととか、家に来たときのこと、覚えていません。先に話すと、小学生の頃まで実の子だと思って過ごしていました。

小学生の頃の私は相当やんちゃで、体を動かすスポーツや校庭で遊ぶのが好きでした。男の子と遊んでいたのも、やることは男の子と変わらず、いたずらをして、先生に怒られていました。高学年になれば友達を殴ったり泣かしたりで、毎日のように先生が電話して、親を呼び出していました。親はあまり怒らなかったし、勉強もしなさいとはそんなに言いませんでした。私が思うには、ライオンは崖から自分の子供を落とすと言われていますが、母もライオンのように自分でつくった問題は自分で解決しろという教育方法だったのです。自分が勉強しなかったからテストの点が悪い。ではどうするかを教えてください、小学生の頃の通信簿は、友達関係以外はオール5でした。友達関係は、ただ遊んでいても、先生にははじめとか喧嘩の原因は私であるとかと見られていて、通信簿にそうつけられたのですが、お母さんは「別にいいんじゃない？」という感覚でした。

親からは実の子ではないと小さい時から言われていたみたいですが、実際に覚えているのは、小学校4年生の時です。その時はちょっとショックでした。別に母は母ですからと強がりでもいつも言っているのですが、実際は「実の子じゃないってどういうこと」とか「お母さんはお母さんじゃないの？じゃあ、私は誰の子なの？」とか、自分で答えを探そうとしていました。それからは親と喧嘩が多くなり、喧嘩するごとに「だってどうせ私のお母さんじゃないでしょう」「だから怒るのでしょうか。私に指図しないで」「放っておいて」と口癖のように言っていました。喧嘩を理由に親から離れよう、逃げようとしていました。そのストレスや怒りから、毎日のように学校で友達と喧嘩や殴り合いをして荒れていました。そんな生活をしているうちに、生きていても仕方がないとなぜか思ったのです。生まれてきた理由がわからなくなり、このまま行ってもどうしようという、生きる幸せと死ぬ幸せ、どちらが正しいのかなと思っていました。最近では幸せは探すものではなくて感じるものなのではないかというのを思い始めました。

中学生の時、友達に「ありがとう」と言われたそのたった5文字がとても嬉しく感じたのです。自分がどんなに辛くても、相手を思って何かをして「ありがとう」と言ってもらえたことに感動しました。でも、やはり好きになれない人間もいて、陰口ばかり言っている人とか本当に好きではなくて、直接言えよとか思っていたのです。そこで母が「嫌いなどころを見ていたら嫌いなものしか出てこない。一つでもいいところを見つけられるなら、たくさんいいところを見つけられるよ」と言われました。なので、次の日からいいところをたくさん見つけるために、色々な人を観察するようになりました。

小さい時から喧嘩とか私が中心になっていたのも、少し関わっているだけで全て私の

せいにされていたのです。冤罪ですと言っても終わらないので、じゃあ、私だけが我慢すればこの問題は終わるんじゃないかと、自分自身にも嘘をついて納得していました。多分それはお母さんには気づかれていたんです。特に何か言われることもなかったんですが、色んなものや外の世界を見せてくれました。

中3では、私は友達といることが多くなり、殆ど家に帰らなかったんです。母にはたくさん心配かけたと思います。母から「何時に帰るの?」「遅くなるんだったら気をつけて帰ってきてね」とメールが来て。楽しくて、気づけば深夜の2時や3時になっていた時もお母さんは起きていて「お帰り」「寒かったですよ。お風呂入る?」とか言ってくれて、明日仕事があるにも関わらず起きていたのです。その時は、母に対しての感謝というものは全然なかったですね。

特に夢がなく、行きたい高校もなく、勉強もできるのが理科、数学、体育だけ。見つかる仕事はろくなものじゃないと思って、小さい時からスポーツが好きだったので、体育のスキルが必要な私立女子校からスポーツ専門学校に行こうと思いました。高校に入る前に、児童養護施設の人から実の親のことを教えてもらい、お兄ちゃんが2人いると知りました。実の母の顔は一切見たことないですが、今、実の母とメールで連絡はしています。メールに返しても毎回既読無視ですが、向こうも会いたいとは思っているみたいですが、実の母は会う資格がないと言っています。お兄ちゃん2人はおばあちゃん達に引き取られているのに、なぜ私だけ施設なのかなと思うこともあります。

高校に入り、母に誘われ自立支援プロジェクトに参加させていただきました。今まで自分と同じ立場の人は周りにいませんでしたが、参加することで、私とは違う考えを持っている人達や、もっと辛い思いをしてきた人がいることを知りました。私は里親のもとで親子同然の暮らしをしてきたので不自由はありませんでした。高3の時にプロジェクトの1つで、英語も苦手で喋れないのにマレーシアに行きました。養護施設などで過ごす色々な同じ高3の子達と行きました。ホームステイ先は2人1部屋で、同室の子がある時、泣きながら今までの経験を話してくれました。日本に帰ってきて、彼女に「ありがとう」と言われましたが、「何もできなくてごめんね」としか言えませんでした。そのとき、やっと里親家庭で育った私はとても恵まれていたことに気づきました。恥ずかしくて里親に直接「ありがとう」とは言えないですが、父と母に感謝の言葉と幼い頃からの写真を集めて、動画を送りました。

18歳の措置解除で、これからひとり暮らしをしなければいけないという時に、東京は家賃が高いので、実の親の住民票がある新潟の専門学校に行きました。結局会えてなくて、今の情報だと静岡みたいで、どこかをうろちょろしていると思います。

私には今、血はつながっていない弟と妹がいて、私が一番上で、下に中一、5歳、3歳、2歳といます。仕事が休みのときは今でも里親宅に行ったりして、その子たちのお守りをしたり、たまに旅行に行ったりしています。

## 10 今を目いっぱい楽しんで！

### 【里母】

里親2年目の新入りで、現在夫と4歳になる里子のTの3人家族で生活しています。

里親というと、真実告知のタイミング、なぜ実子にできる養子縁組にしないのか、の2点をよく聞かれます。真実告知は、Tが我が家に来て1年たった頃に。まだ3歳でした。Tが乳児院の記憶を覚えており、通っている保育園と記憶が混在してしまうので、なるべくわかりやすく伝えたいつもりですが、どこまで理解しているかはわかりません。今も時々、乳児院での話をしてくれます。彼の楽しい思い出の一つと思い、私も楽しく聞かせてもらっています。次に、なぜ養育家庭だったか。養子縁組では、各実施機関で登録や子供の紹介などの条件がそれぞれ異なります。私達夫婦は、専業主婦でなければならぬ、子供の紹介に時間がかかる可能性があるといった条件をクリアできず、無理に条件に合わせても、長い年限で後悔する時がきっとあると思い、養育家庭を選びました。

登録前に職場に承諾を得てから、登録研修を受けました。職場のみんなは応援してくださっていましたね。カリキュラムを終え、里親認定書が届いた時は本当に嬉しかったです。ただ、殆どのカリキュラムや家庭訪問も平日、夫婦揃ってが多く、会社に休みの申請があわず喧嘩になりかけたり。共働きでも大丈夫だよと東京都は言っていますが。

登録から1年後の紹介では、同期が仕事をやめて私に仕事が回ってきたり、自分もちょっと自信がなく交流で仕事に穴をあける焦りから断ってしまい、その時は本当に悔しくて、次こそは親になるチャンスを逃さない。その後、2歳7カ月の子供の連絡をいただいたのが、今のTです。まだ候補者だから、もしかしたら選ばれないかもしれないし、もしかしたら私は1カ月ぐらい仕事休みますという訳の分からないことを言い、職場の人も「はあ？」となるわけです。一生懸命かみ砕いて説明しましたが、職場に児童相談所の人から話してもらいたい位、素人には無理があったので、それが一番大変でした。

ようやく第1候補者になり、すごく嬉しかったのですが、私には全然懐かなくて夫の方に行ってしまうのです。交流は私の方が多かったので打ち解けているのですが、夫に懐いているのをいいことに、思いっきりパパっ子にできてしまっています。パパが大好きでお風呂も寝かしつけも夫がしています。交流期間は、この時のためにためておいた有給休暇を利用し、平日週3回程度、会社の休み時間等を使い、土日を入れて会いに行くのですが、交流期間でうまくいかなければ選んでもらえなくなってしまうのではないかと切羽詰まっていました。1カ月の長期外泊まで無事やっていくのですが、外泊を繰り返す頃にはT自身も我が家と思ってくれたようで、乳児院に送り届けるときには、寂しい顔をしてくれて、最後はすごく泣いてしまったりするのです。交流と同時進行で保育園探しもしました。長期外泊中は乳児院に委託されているため、保育園登録ができません。里親制度の説明からする必要があり、本当に大変でしたが、児童相談所やいろいろな方に助けてもらいながら、近くに新設された保育園に何とか通うことができます。

働いていると様々なことが同時進行で、大変だったかどうか、どうしたらうまくでき

たのかは今になっても全然わからないのです。がむしゃらに頑張っていた理由の中に、Tには別の乳児院で生活する年子の妹がいて、いずれその子も引き取りたかったのです。結局Tの委託後、妹は別の家庭に行き、一緒に過ごすことはありませんでした。

卒園の日は担当保育士さんがいつものようにTに話かけ、みんなが見送ってくださるのですが、やはり何か感じたのか、玄関で「行かない」とだだをこね、保育士さんが「散歩に行こう」って外に出て「上着を忘れちゃったから先に歩いてね」と。「わかった」って、Tが先に一人で歩いた瞬間に保育士さんは壁に隠れて。よく考えたら4月で寒いのに半袖で、そういうことかと思ったのですが、壁のところから保育士さんが深々と私たちにおじぎをして、お願いしますということですね。Tにわからないように。どれだけ乳児院で大事に育てられたか、Tが大きくなったら徐々に話していこうと思います。

そして、あの日初めて2人で、もう家に来られるようになった日です。自宅のドアを「ただいま」とあけたのは、私の生涯の宝物です。私は子供との生活をイメージトレーニングしていたのですけれども、全く役に立たなくて。これから登録される方はもう、子供とのイメージトレーニングはしないほうがいいと思います。今、置かれている生活の中で、目いっぱい毎日を楽しんで子供を待つことをお勧めします。結構落ち込む日も続き、実家の母に甘えて電話すると「1人だから何でも気になるのよ」「Tも息が詰まるから。何人も子供がいたら気にならないからね」と言われるので、Tと何かあった時は、心の中で3人兄弟と念仏のように唱えながら、自分の中で3人、3人と唱えています。

Tと暮らすようになりまして、さまざまな実親さんのケースを聞くたび、同じ女性としてそうせざるを得なかった、子供を手放さなくてはいけなかった親御さんの胸の内を考えることが大分増えました。その方々の全ての肯定はできないですが「辛かったね」と共感できる部分はあります。Tの実親の詳細はわかりませんが、やはり本当は一緒に楽しく生きていきたくただろうなと思います。虐待せずにTを施設に預けてくれ、私は本当に感謝しています。いつかTに実親さんのことを聞かれる時が来たら、私はTをこんなに素直にかわいく産んでくれたことに感謝しているよと伝えようと思います。会ってみたいと言われれば一緒に探そうと思いますし、会えなくて泣くのなら共に泣こうと思います。そういう自然に湧いてきた気持ちを正直に話せる親子関係や、困った時にすぐに連絡してもらえるような関係に、生涯を通し育んでいけたらいいなと思います。

最後に、Tはとても親孝行な子です。いいことも悪いことも含めて、Tの成長は私たち夫婦にすごく喜びを与えてくれるのです。私たち親子がこうして楽しく過ごせるのは周りのサポートのおかげですが、本当は一番大変で、一番頑張っているのは、本人の意思とは全く関係なく、言われるがまま、選択肢もなく、新しい環境に投げ込まれ、新しい環境に溶け込んで生きていかななくてはならなかったTです。Tの素直さと頑張りのお陰で、私は今、お母さんにならせていただいています。今日一日一日を家族が元気で、笑顔で過ごせることに感謝して、これからも今日と同じ日を毎日重ねることができるようになりたいと思います。



## 1 1 里親になれた私たち

### 【里母】

私は、3年前の2014年10月ごろに養育家庭の里親として登録させていただきました。私たち夫婦は、6年前の夏、当時3歳だった息子を事故で亡くしました。ずっと、つらい毎日でしたが、息子の死から2年以上過ぎたころ、私たち夫婦の中で、「もう一度子育てをしたい」と前向きに思うようになり、養育里親になるということを決めました。初めてお子さんをお預かりしたのは、登録をして3、4カ月が過ぎたころで、一時保護で、生後2カ月の赤ちゃんを1カ月ほどお預かりしました。まだ首も座っていない赤ちゃんのお世話は久しぶりでしたが、穏やかなお子さんで、ミルクを飲むとよく寝てくれました。主人と一緒に協力したり、周りの方に助けていただきながら、無事に1カ月お預かりできました。この経験を通して、里親としての自信が少しつつ、これからも続けていきたいと思うようになりました。

間もなくして、今度は長期委託の予定で1歳半のAちゃんのお話をいただきました。初めてAちゃんにお会いしたとき、とってもかわいい子だと思いました。Aちゃんと2、3カ月ぐらい交流をして、1歳10カ月のときに我が家への委託措置が決定いたしました。最初の頃、食事に関しては、かなり苦労しました。また、Aちゃんは2歳前後のイヤイヤ期で、こちらは年齢的にも更年期というのもあって、時にはいらいらしてしまうこともありましたが、一緒に公園で遊んだり、買い物に行ったり、絵本を読んだり、御飯を食べて、お風呂に入り、一緒に寝てという、ごくごく普通の御家庭と一緒に生活を、日々過ごしながら、私たち夫婦とAちゃんの信頼関係を築いていきました。

信頼関係もできてきたと思えるようになったのは、我が家に来て半年以上たったころだと思います。いろいろなものをよく食べてくれるようになり、自分の思いも伝えてくれ、伸び伸びと過ごすようになりました。最初のころよりも表情が豊かになって、かわいい笑顔もたくさん出してくれるようになりました。Aちゃんとの生活が安定してきて、我が家に来てちょうど1年たったころ、Aちゃんが近く家庭復帰をするという話が出ていることを知らされました。それを聞いた日は、悲しさから、涙がとまりませんでした。

その後、Aちゃんと親戚の方との交流が児童相談所で週に1回のペースから始まりました。2回目の交流が終わった日、絵本を買いに本屋さんへ行きました。本屋に行くとAちゃんが、売っていたおもちゃを手にし、「これ買う！」と言いながら急に大泣きし、床に寝転がって暴れました。そんなことは初めてでした。大泣きするAちゃんを抱きかかえ、何も買わずに急いでお店から出たのですが、出た瞬間、私自身反省しました。Aちゃんがこれ買うと言ったときに、何で、それ買おうねと言って、Aちゃんの気持ちに寄り添わなかったんだらうと。きっとAちゃんは急に始まった親戚の方との交流が不安だったと思います。それから、大泣きするAちゃんに大好きなおいしいアイス食べに行こうと言い、気持ちを切り替えるようにしました。私はそれ以降、交流の後は、頑張ったねと、おいしいアイスを食べに行くことにしました。

私たち夫婦は、Aちゃんの家庭復帰の話に気持ちがついていかずに、正直、渋々協力しているというような状態でしたが、交流が始まって1カ月以上がたち、100%ではないにせよ、Aちゃんの家庭復帰を応援するという思いになっていました。そんな風に気持ちを切りかえられたのは、やっぱりAちゃんの優しさを感じていたからだと思います。

私や夫が息子の仏壇にお線香をあげていると、Aちゃんが来て、一緒に手を合わせてくれたり、写真の息子にも話しかけてくれたりするのです。本当の家族がいるように接してくれたAちゃんにはとても感謝しています。そんなAちゃんのように、私たちもAちゃんの御家族を大切に思い、そしてその御家族のところに無事に戻れるよう応援しなければと思いました。交流は、年が明け、少しずつお泊まり交流を繰り返していきながら、2月の下旬に家庭復帰の日を迎えました。最後の日は、職員の皆さんと私たち夫婦とで出発するAちゃんを見送りました。車に乗ったAちゃんに、元気でねと言って抱きつこうとしたら、嫌がられてしまいました。みんなの前だから照れていたのか、いつものあっさりした、Aちゃんらしく出発していったのではないかなと思っています。

私は、季節の行事やお誕生日などのイベントを家族と一緒に楽しく過ごすことは、子供にとって大切なことだと思っています。Aちゃんともたくさん楽しく過ごしました。そう遠くない将来、Aちゃんは多分、私たち夫婦のことは忘れてしまうと思います。けれど、この先、お誕生日などの記念日とか、季節の行事が来るたびにその時間が楽しい時間であるんだということを思っていてくれたらうれしいですし、Aちゃんが将来結婚して、自分の家族を持ったときにそういった時間を楽しく過ごしてくれたらうれしいなと思っています。

これからも里親を続けていこうと思える一番の理由は、大変なことも多いんですが、お子さんと一緒に過ごせる生活は楽しいからです。笑っていられる時間もたくさんになります。血のつながらないお子さんでも、日々一緒に過ごしていくと、実の子と同じように過ごしていけるお子さんがいるということをおちゃんが教えてくれました。どのお子さんでもそう思えたかといったら、正直そうではないと思うんです。Aちゃんが家庭に戻って半年以上たちますが、今思うことは、お別れはつらいし、悲しかったです。Aちゃんが実家庭に戻れたことを本当によかったと思っています。お預かりした1年5カ月はあっという間でしたが、Aちゃんの成長に少しの期間でも携われたことがうれしかったです。私は息子を亡くしたころ、この先、どう生きていったらいいのか、生きていけるのか、わからない状態でした。でも、今こうして里子さんたちと御縁をいただいて、里親として生活できること、感謝したいです。里親制度は、子供の幸せのためにありますが、この制度があったことで、私たち夫婦が里子さんたちから、たくさんの笑顔ある生活をいただいています。そして、息子が生まれてくれなかったら、私は母になれませんでしたし、里親になることもできませんでした。里親になれたことを大切に、これからも、家族みんなで頑張っていきたいと思っています。

## 12 一時保護委託・短期委託を通して感じること

### 【里母】

養育里親に登録してから7年ほどたちますが、私たち夫婦は子供を小さいころから長い期間養育するのではなく、私どもの家の都合から一時保護を主にさせていただいております。皆様には、こんな里親の役割もあるということを知っていただけたらと思います。

私たちには、実子に娘が4人おります。現在はおかげさまでみんな成人して、それぞれの道を歩んでおります。子育てをしている中、テレビなどのニュースで児童虐待の事件報道が幾度もされているのを見て、我が子は家族に囲まれ、楽しく話をしたり、食事をしたり、姉妹で転げ回って遊ぶ姿に同じ人間として生を受けたのにとテレビの中の子供に申しわけないような気持ちで胸を痛めておりました。そして、末娘が中学校に入ったのを機に里親登録をいたしました。

私たちが今まで受託した子供は、親の病気や虐待など理由はいろいろあり、また、年齢もさまざまですが、そのほとんどがある日電話で打診があり、こちらの都合がよければ夕方にはうちに来て、今わかり得る情報を聞いて、そのまま委託されることとなります。急な電話に初めは戸惑いました。外出中の電話のときもあるのですぐさま帰宅して、あわてて迎え入れる準備をいたします。実子に連絡する余裕がないときには娘が学校から帰宅したら家族が1人増えているわけで、あら、という感じで驚きますが、事情を話すときさげなく接して、いつの間にか仲良くなっていて、実子にはいつも助けられていました。

職員さんに連れられ、知らないおじさん、おばさんの家へやってきて、神妙な面持ちの子、はしゃぐ子、はにかみながら挨拶する子、あまり感情のない子などとの初対面はこちらもどきどきですが、子供たちは自分の置かれている状況に不安でたまらないはずなのに、どの子も気丈に職員さんと別れ、私たちにその身を委ねられることとなります。その後、家族紹介、家の中の案内、夕食、お風呂とばたばたの後、夜、子供の寝息が聞こえたとき、私たちはほっとすると同時に無防備な寝顔を見て、1人の子供を託されたことの大きさに身の引き締まる思いになります。

一時保護は、4日とか1週間、3カ月など期間に大体の目安がありました。ただ、保護される詳しい状況がわからない場合があり、どこまで聞いてよいか、どれぐらいの距離で接したらよいのか、子供も少し慣れてくると我が出てきます。いたずらや隠し事をされたときの対応の仕方など悩むところは多々あります。そんなときは児童相談所に気づいた事柄を伝え、後からわかった情報を聞くなど事あるごとにやりとりをして、その子にとってよりよい養育を模索しています。

子供はうちから学校に通ったり、保育園に送り迎えしたりすることがあります。短期間委託された子供をうちから修学旅行に送り出したとき、私にまでお土産を買ってきて、気を遣ってくれていることに感激したこともあります。通学、通園できない子供は家で

一緒に遊んだり、お手伝いをしてもらったりして過ごしました。

ただ、娘ばかりな私は男の子に困りました。遊び方や興味を持つものが違い、はやりの戦隊ものはわからず、トイレやお風呂はどうしようでした。友人や知り合いに教えてもらったり、助けてもらいながら男の子を理解していきました。受託している間、けがや病気をしないように特に心の面でとても気を遣います。おかげさまで今まで預かった子は暴れたり、わがままを言い続ける子はなく、小さい子はみんなだっこやむぎゅが大好きで、寝る前に童謡を歌ったり、背中をなでなでしました。小中学生は悩むのですが、一緒に夕食をつくるなどして、できるだけそばに寄り添って、里子ちゃんには満足はさせられないかもしれませんが、縁あって私たちのもとへ来てくれた子にここにいる間は私たちにでき得る精いっぱいのことをしてあげたいとの気持ちでした。今でもみんなの顔が思い出され、元気で笑顔でいられる生活ができるようにいつも願っています。

こんな受託を繰り返して、現在我が家には昨年8月に来た5歳のK君がいて、最初は一時保護でしたが、今は養育ということになっています。毎日若いママにまじって保育園に送り迎えしています。保護理由は継父からの暴力でした。顔合わせのとき、にこっと人懐っこい笑顔と可愛い声で挨拶をしてくれ、案外大丈夫かと思ったのは東の間、掃除機をかけた途端にぎゃあっと泣き叫び叩いてくる。スーパーで男の人の声で放送が流れると、突然耳を塞いで震えて怖い怖いと座り込む。お片づけをされていて急に「嫌だ嫌だ嫌だ」と泣き叫ぶなど、いつそのスイッチが入るのかわからず途方にくれました。それでも毎日暮らすうちにちょっとした音やタイミングで怖い体験がよみがえってくるのだろうとこちらも少しずつコツがつかめ、そんなときはまず抱き締め、背中をなでていると徐々に落ち着き、泣き叫ぶことは今はもうなくなりました。また、いつもアンテナを張っていて、遊んでいても私の動きを察知して、毎回トイレに追いかけてきてドア越しに泣かれたり、だっこやおんぶをねだり、足元にまとわりつかれ、5歳の子を思わずおんぶひもでしょって食事の準備をしたこともあります。しばらくして保育園に入ることができ、お友達と伸び伸びと遊び、いろいろ体験しています。

当初、生活面でできないことが多く、お友達とけんかをしたり、すぐに「できない、嫌だ」と泣いて投げ出していたK君が今は友達に応援されながら、こま回しや縄跳びに取り組んでいます。相変わらず可愛い声で「おばちゃん、だっこ」「おじちゃん、絵本読んで」と毎日せがんでくれます。あと、何カ月かでK君の委託保護は終わってしまう予定です。気持ちの優しい子なので、たくましく育ってくれたらなと思って、日々何とかレンジャーと格闘しています。里子ちゃんのおかげで、笑ったり、泣いたりのだたばたの毎日で元気をいっぱいもらっているなと思います。こんなことが言い合えるお仲間が増えますようにと願っております。

余談ですが、実子の1人が養護施設の職員で日々頑張っています。私たちが里親をしていることが今の彼女に何か影響を与えたのであったらとてもうれしいなと思っております。

## 13 私の家族 ～里親家庭だったから経験できた～

### 【元里子】

私が養育家庭で生活するようになったのは、小学校6年生の1月、父が病死したことがきっかけでした。母も父が亡くなる前の年に亡くなっていたので、父が亡くなった後、私は一時保護所に預けられました。一時保護所からは学校に通うことができないので、今までいた小学校で卒業できるようにと、本来なら設けられる交流期間を設ける機会もほとんどないまま今の里親家庭で生活するようになりました。

最初は小学校に通えて楽しい気持ちしかなかったのですが、それまで生活していた環境とは全く違ったので、少しずつ苦しいな、大変だなと思うことが増えていきました。

今まで家に誰も大人がいないというのが当たり前の生活で小学校低学年のころから夜遅くまで一人でテレビを見て、朝起きて学校に行くという習慣もほとんどなく、給食が食べたくて学校に行っていました。友達と遊びに行っても夜7時過ぎまで遊んでいたりと、友達の家で御飯を食べたりという生活でした。しかし、里親家庭に入ると、里母が家にいて毎食きちんとご飯を用意してくれる家庭だったので、その時点で今まで自分がいた環境とは全く違いました。朝きちんと起きて学校に行き、夕方帰ってきて、きちんと決まった時間に夜御飯を食べなければいけないようになりました。今まで自由にできていたことができないということがすごく窮屈で、少しずつそういったことが自分にとってストレスになっていきました。夕飯が終わって、テレビを見てみると「お風呂入りなさい」とか「宿題やったの、勉強しなさい」と言われます。友達と遊びに行くときも「誰と遊びに行くの」「何時に帰ってくるの」「どこ行くの」と聞かれます。そのときの私は、どうせ他人なのに、何でそんなことまでいちいち言われなきゃいけないだろうと思っていました。

大人になった今なら、当時里親さんの言っていたことを理解できます。しかし当時は、自分がそれまでいた環境しか判断基準がないので、里親さんの言っていることは自分の思うように私を動かしたいだけ、私のことが嫌だから文句言いたいだけぐらいにしか思えませんでした。

最初は小学校を卒業するまでの短期という約束だったのですが、小学校を卒業した後も一緒にいた友達と離れたくないという希望があったので、自立まで里親家庭で暮らすようになりました。その後も何度もぶつかっては嫌だ、嫌だと思っていました。そんな私を見て、里親さんが「児童相談所に行って、自分が思っていることを話してきなさい」と言って、何度も児童福祉司さんと話をする機会をつくってくれました。また同世代の里子と交流ができるような場に連れて行ってくれたりして、同じように実の親と暮らしていない、社会的養護を受けている子たちを目の当たりにする機会が増えました。少しずついろんな人に話すことによって、何となく自分がやりたいこと、里親さんがやってほしいこと、全部はではなくても、少しずつお互いすり合わせていくことはできるのかなと思うようになりました。今までの生活は普通とはちょっと違うのだなというのが何

となくわかるようになってきて、すぐに自分が言っていることが間違っていると認めることはできないけれども、里親さんが言っていることがおかしいという感覚ではなくて、自分が思っていたのが普通とはちょっと違うんだなというのを受け入れるようにはなっていました。

中学校3年生になって高校受験を控えて、里親さんと話す機会もすごく多くなって、私よりもよっぽど真剣に少しでもいい環境をと考えてくれて、私のことをこんなに真剣に考えてくれる人なのだと感じ、そこから少しずつ信頼できるようになり、話も受け入れられるようになりました。

無事に高校入学した後ももともと勉強する習慣がないので、学校に提出物が出ていませんなどと、何度も里親さんには迷惑をかけましたが、高校で出会った友達に本当に恵まれて、高校生活はとても充実していました。里親家庭で生活しているということ、周りの友達に、「この子、ちょっとかわいそうな子なのかな…」と思われることなく生活できたことがすごく大きかったです。学年が上がるにつれて、自立とか、高校3年生で措置解除というのがちょっとずつ何となくプレッシャーになっていました。しかし、里親さんが「自立した後も近くに住んでいつでもおいで」と言ってくれる人だったので、突然投げ出されて一人になるという環境ではなく、それはすごくありがたかったと思っています。

高校卒業後は大学の2部に進学をして、里親の家の徒歩1分ぐらいのアパートに住んで、昼間に働きながら学校に通っていましたが、日中働きながら夜に学校に行くというのはそんなに簡単なことではなくて、仕事をしている方がお金も稼げますし、自分がやりたいことができるなと思うようになりました。その結果、大学は3年生の前期で中退しました。ただ、私の行っていた高校がほとんど全員大学に進学するような学校に行っていたので、その時に大学に行かずに働くというのを決めていたら、きっと何で行かなかったのだろうと後々後悔していたと思うので、大学に入学できたということは私にとってはすごくありがたい経験ができたと思います。

自立して10年ぐらい経ち、振り返ってみると、うまくいっていない時でも今の里親さんは家族で出かけたりとか、旅行に連れていってくれたりとか、里親家庭だったから経験できたと思うことが本当に多いです。里親に委託される前の交流期間がほぼなく、生活スタイルの変化や、実親への思いから、里親家庭に入って数年は辛いと感じました。しかし実の父が生きていたらきっと私は私立の高校に進学することもなかったですし、大学に入るということもなかったと思います。私は里親家庭にいたから、高校中退せずに、10代の私の現実味のない希望を里父母と一緒に考えて実現できるものに変えてくれたおかげで、今ここに来られたと思います。今では実親と暮らしていた期間よりも里親家庭に入ってから期間のほうが長くなったので、私にとってはとくに家族だったのですけれども、その後養子縁組をしたことによって法的につながりができて、社会的にも家族になれたのかなと思っています。

## 14 彼女たちに教えてもらったこと

### 【里母】

我が家は3年前に里親登録をしました。当初、養子縁組を考え、ある養子縁組の団体の説明会に行くと代表の方は里親もされていて、交流中の子供が泊まりに来た時に、仮病を使ってまで施設に帰ろうとしなかったというお話をしてくださり、それを聞いて、子供はそんなに家庭を欲するものなのかと胸を打たれまして、これが里親になろうと決意する大きなきっかけになり、平成26年9月に里親認定をいただくことができました。

初めて一時保護委託で2歳の女の子を1カ月預かることになりました。1週間を過ぎたころ、些細なことで激しいかんしゃくを起こして、私を蹴ったり、つねったりするようになりました。わずか2歳の子が暴力を振うということが衝撃で、言葉を失いました。つねり方が、すごく痛いやり方で、誰かにされたことがなければこんなやり方はしないだろうと背筋が凍る思いでした。びっくりして、児相の方へお電話すると、1カ月では自分を出さないだろうと思っていたようで、逆に自分を出せたんだという驚きと感動があったようです。私が、専門家のケアが必要なのではないかと言うと、そのケアをするのが里親さんで、この人なら受けとめてくれると思ったから出しているんです。里母さん、あなたは選ばれたんですと言われまして、少々いい気分になってしまって、頑張ろうといった決意をし直しました。

次に一時保護で預かったのは、小学校4年生の女の子で、彼女も育児放棄をされているお子さんで、驚いたのは、彼女の服や髪の強烈な悪臭でした。これはいじめにつながりかねないと心配になり、お洗濯は自分でしていると言うので、干し方までを一度、一緒に確認し、髪は私が洗うようにしたのですが、においがとれるまで1週間かかりました。3週間過ぎたあたりから甘えた口調で抱きついてきたり、膝に乗ってきたり、ぎゅーってしてと言ってくるようになりました。お母さんのことやおばあちゃんのことを話すようになり、彼女に対して腹が立ったことは、この子のせいではないのだなと実感して、それから送り出すまでの間は穏やかな気持ちで接することができました。

そして昨年、長期委託の予定の里子のお子さんとの交流のお話をいただきました。乳児院で暮らす1歳9カ月の女の子で、人見知りと場所見知りが激しく、いつもと違ったり、知らない人が来たりすると激しく泣き続ける難しい子で、交流は根気が必要と言われました。初めて会いに行った日は、保育士さんにしがみつき、私たちに近寄っては来ませんでした。次に交流に行くと、部屋に入った途端、すさまじい泣き声で泣かれました。集団の中での交流がしばらく続き、なかなか縮まらない距離に、この調子で我が家に迎える日が本当に来るのだろうかと不安が大きかったです。

1カ月ほど経ったころ、交流に行き、私が抱っこするとすさまじい声で泣き始めましたが、それでも初めて抱っこをした瞬間のときめきは、今までのどんなものとも比較にならないほどで、彼女へのいとおしさが胸に一気にあふれてきました。個室での交流に切りかわり、抱っこすると大泣きされ、そのうち寝てしまうということがしばらく続き

ましたが、だんだん泣く時間が短くなり、一緒に遊べるようになりました。

この交流の間に彼女が2歳の誕生日を迎え、当日は、大好物のドーナツを食べに行き、一緒に飛び出す絵本をつくるという企画をしました。この本は今でも寝る前によく読みたがってくれます。

5カ月後に正式に委託となり、一緒に生活が始まりました。全ての世話は私でないと泣き叫んで嫌がり、私にしがみつき泣き叫んでいました。

試し行動があるということは研修で学んだので、冷静に対処できると思っていましたが、それは甘かったです。私の神経が参ってしまったのは、夜寝ないことと、着がえで逃げられることでした。着がえは、シャツを着せようとして頭を通そうとした瞬間逃げる。やっと上を着せて、下を履かせようと、足をつかもうとした瞬間逃げる。寝かしつけと同じで、あとちょっとのところでのいうのと、一つ一つのことがなかなか終わらないことととにかく参りました。

あるとき、何気なく髪をかき上げると指先が変な感触で、その瞬間はっとして、もう一度髪に手を突っ込んでみると、髪がないところがありました。円形脱毛症になったんだと気づいて、主人に確認してもらおうと、大小含め、ハチ周りに5カ所脱毛がありました。こんなにストレスだったのかと自覚し、真面目に対応するのはやめようと思い、逃げたら追いかけて、休息になるぐらいに思って、目を閉じることにしました。そうすると、嫌がって、すぐ戻ってきて、着がえがスムーズになりました。

家族への試し行動もひととおりにやっ、少しずつ落ちつき、家族以外の方にも、挨拶やお話もできるようになりました。かわいげがないと怒っていたお姑さんのお友達も、来るたびにお菓子をくれて、ほっぺたにチューして帰るほどかわいがってくれています。近所の方々も本当にかわいがってくださり、ありがたい限りです。

1年たって、何事にも慣れたかと思っていましたが、置いていかれる不安というのがどうしても根底にあるようで、ママはどこにも行かないよと言うと、やっ寝つきました。なかなか寝ない時に、こちらが寝たふりをしていると、話しかけてきたり、私の目をこじ開けようとしたりします。それでも寝たふりをしていると、ママ大好きだよと言ってくるので、これにはだまっていられず、どうしても、ママも大好きだよと返してしまうので、なかなかの小悪魔だなと思います。

3歳になり、どんどん子供らしくなりつつ、主人がごろ寝をしていると、自分のお気に入りタオルケットをかけてくれたり、義父母が階段を上がり下りするときにはつき添って、気をつけてねと声をかけてくれたり、私のこともよく心配してくれます。義父母は88歳と94歳で、既に十分長生きかなと思います。彼女のおかげでまた寿命も延びたのではないかと思います。

里親になって、子供たちとの出会いや児相の方や里親さんたちとの出会いは、本当に得がたい経験で、今ではもっと早くなっていればよかったと思っています。



## 15 紆余曲折を経て見つけた大人への道

### 【元里子】

私は、三歳の時に、都内の乳児院から現在の里親宅に引き取られ16年になります。その時の事を私はよく覚えていませんが、里親宅までの1時間半あまりの間、車の中で私はずっと泣き通っていたそうです。途中泣き疲れて寝入っては、また、起きて泣いていたそうです。両親の他、10歳と15歳年上の兄たち2人とも2か月程の間交流しておりました。今、手元に乳児院で過ごした2年数ヶ月の記録があります。それを見ると、里母が3日にあけず絵本を持って交流に訪れるようになって、幼い私がとても心待ちにしていた様子がわかります。でもやはり、乳児院を離れて、ひとり見知らぬ家に連れて行かれるのは、恐ろしく不安だったのだと思います。

里親宅に来てからは、全く声を発せず、「この子、口きけるの？」と、兄たちが心配していたそうです。何日かすると小さなひそひそ声で話し出し、数週間して初めて大きな声で発した言葉が「ぼくはライオンだ！」だったと、母は今でも覚えています。

幼い頃、里母から「お兄ちゃん達を産んだのはママだけど、Mちゃんを生んだのはママじゃなくて別のお母さんがいるんだよ」と聞いていた気がします。幼過ぎてよく理解はしていませんでしたが。その後、私は2度ほど、思い出したように、里母のところに行って「お兄ちゃんたちはママが生んだんだけど、Mちゃんはママが生んだんじゃないんだよ」と、確かめに行ったことがあるそうです。母が「そうだ」と答えると、「ふ～ん」と言って、また離れていったそうです。

私は現在の里親宅しか知りませんが、ごく自然で、兄達や友達の親子関係と特に違いもなく、他の親子関係を羨ましいと思ったこともありません。身寄りの少なかった里母は、祖母を亡くした後、女の子に恵まれなかった我が家に娘を迎えることは悲願だったと言ってくれます。

私には、乳児院まで一緒だった双子の姉がいます。姉は3歳になると、障害児として都内の医療療育センターに入寮しました。私達は、出生体重、姉が900g、妹の私が890g、の極小未熟児で生まれました。その為、姉は水頭症その他の障害が残り今でも車椅子の生活をしています。私は一応、健常児として生活してきましたが、病院通いに暇がありませんでした。幼い頃からとても小さく、幼稚園や小学校のクラスの子供達と、とても同い年には見えなかったといえます。消極的で友達に話しかけるのも気後れがして、授業中、手を挙げることもできませんでした。小学校2年の時に都内の大学病院で成長ホルモン分泌不全性低身長症と診断され、何年もの間、ホルモン治療を受けました。それはとてもお金のかかる治療で、『小児慢性疾患』の認定を受けて、治療を受けられるようになったのを、母はとても有難かったと言います。私もこの場を借りて、お礼を言わせていただきたいと思います。本当にありがとうございました。

毎晩ホルモン注射をする必要があるので、学校の修学旅行、家族旅行などは必ず注射器と薬剤を保存できる冷蔵庫があるところか調べてから行きました。中学生になると注

射も自分で打っていました。お陰様で、今は身長も152cmになり、普通に友人達の中にも入っていただけます。かつて、友達作りに悩んだ事を思うと、今、親しい友人達に囲まれているのがとても有難く、中学、高校時代は友達を何よりも大切にしてきました。

低身長症の治療に通っていた大学病院で、夏休み、『中高生のための看護体験』というのがありました。そこに参加希望の旨を担当主治の先生に話すと、とても喜んで「ぜひ、小児科にも来なさい。」と言ってくれました。里親からのアドバイスもあり、これからは女の子も確かな経済力を持つしっかりした女性になってほしいと、看護師、保育士などを勧められていました。障害を持った双子の姉も、私が看護師を目指すことをとても喜んでくれました。

高校生になってからは、健康面の不安もほとんどなくなり、希望する看護系の推薦基準を目標に勉強をし、『生物』『化学』には特に力を入れてきました。しかし、私の持病という健康上の問題もあり、紆余曲折の末、看護ではなく保育系の道に進むことを決心しました。現在、私は都内女子短大の『こども学科』に学んでいます。当初の目標とは違ってしまいましたが、私の憧れだった学校に入学できたのは夢のようです。

大学受験の際に自分の戸籍謄本を初めて見せてもらいました。実の父母は離婚しており、実母については母子手帳のみで、その後の手がかりはありません。親権者の実父は既に再婚していました。新しく子どもも1人いることがわかりました。私は特に会いに行きたい気持ちなどありませんが、特に恨む気持ちもありません。それなりの事情があったのだと思います。里親は「ずっとこの家にいなさい。」と言ってくれますし、私には双子の姉もいます。

クリスマス会やオータム・フェスティバル、巣立ちの会などで姉の療育センターを訪ねると、周りの子どもたちは私と姉を見比べては「おんなじ顔」と言って、迎えてくれます。姉は障害がありながらも明るく人懐っこい性格で、人と話すことが苦手で引っ込み思案だった私とは違った成長の仕方をしている気がします。

この夏休み、私は地域の学童クラブでアルバイトをしました。何年ぶりかの一輪車や縄跳びで、小学生たちとはね回る毎日でした。奇妙に聞こえるかもしれませんが、私は病院通いが多かった割に、リレー、水泳、器械体操など、運動神経には自信があり、体育が好きでした。勉強の科目は数学や英語より、音楽、美術などの芸術科目が好きでした。特に高校で所属したコーラス部では、NHK合唱コンクール東京地区大会の本選にまで3年連続出場できたのが一生の思い出です。幼児教育のカリキュラムでこれらの芸術科目や体育科目を改めて学び直せる、『こども学科』の授業はとても楽しいです。紆余曲折を経て自分に本当に適した道にたどりつけた思い出です。

手探りの未来に向けて受験準備に追われていた昨年から思うと、今年は将来の確かな目標も定まり、とても落ち着いた気持ちです。子供達のエネルギーに押されながらも、とても充実して、大人に一歩近づけた実感のある毎日夏休みでした。

## 16 パパとママになって1年

### 【里父】

現在、我が家には2歳半の男の子M君がおります。現在、家族は、妻、妻の母親、あとペットのチワワがおります。去年の8月から面会を始め、12月に委託されまして、約1年間過ごしております。

私が養育家庭を知ったのは、産婦人科にあった雑誌に記事が載ってまして、興味本位でそれを見たのがきっかけです。話を聞いてみようということで、児童相談所に行ってみました。それまで里親とか、養育家庭という言葉はあまり聞いたことがありませんでした。お話を伺い興味を持ちまして、その後は不妊治療を諦めるというよりは、運命に導かれるようにして、この里親になる道へと徐々に方向転換していきました。

去年の5月に正式に登録をしまして、8月に今のM君を紹介していただきました。当時、本人は1歳3カ月の男の子でした。今でも初めて会った日のことはよく覚えています。乳児院の先生にべったりで、全く離れようとせず、私たちのほうには全然近寄っては来てくれませんでした。それでも会ったその日の帰りは、二人とも興奮と感激で、いろいろ話をした事を覚えています。

それから、週に2、3度面会を重ね、少しずつコミュニケーションを図りながら、遊んだり、昼食を一緒に食べたりしました。そして、慣れてきたころに外出をするようになりました。毎回、どこに行ったら楽しめるか妻と計画を練っていたことを今でも思い出します。小さい子を外に連れて遊ぶということの楽しみや、また大変なことなども知りました。

しかし、順調に思えた私たちも、初めは少しでも笑ってくれただけで満足していたことが、要求のハードルが自然と上がってしまい、いつの間にか歯車が少しかだけ狂い出しました。それは、外泊をして、乳児院に戻ってくると、安心したのか、私たちにちょっとそっけない態度になったり、うれしそうに先生の胸に飛び込んでいく様子がありました。何回か会って、少し外出を一緒にしただけの大人にすぐになつくわけがなく、子供ながら一生懸命頑張っていたことがわかっていながら、受け入れるということに自信が持てなく、里親になることを諦めなければいけないのかなと二人で悩みました。

また、その時期にもう一点悩んでいたことがありました。ある日、知人にこのことを話したところ、施設でそのまま過ごすほうが幸せなのではないかという意見がありました。少し自信を失っていた私たちは、知人の言うことが正しいのかなと少し考えてしまいました。施設には優しい先生がいて、栄養バランスの整った食事、行事も盛大にやってくれるし、家にはない大きなおもちゃもあつたりして、同世代の友達もたくさんいて、幸せではないのかと思ってしまったんです。再度、私たちはそこで悩んだ結果、外泊の経験だけしかなかったんですけれども、今は決断してよかったと思っています。

なぜかという、自分だけを心から愛してくれるパパとママがいて、愛情を独占できること。毎日家族で食卓を囲める幸せ。一緒にお風呂に入る幸せ。いろいろな場所に車

で遊びに行って、時間を気にせず思いっきり遊ぶことができる幸せ。家庭で育つことがよいのでは。一般的には当たり前の生活ができるということで、明らかにM君の表情がお兄ちゃんらしくなったり、言葉が話せるようになったり、しっかり走れるようになったり、順調に成長していることを見ている、家庭で預かってよかったと心から思っております。

そのようなことなどを含めまして、私たちは乳児院の職員の方々に伝えて、相談しました。悩んでいたときに乳児院で過ごしていた時間も全てM君の人生なので受け入れてくださいと職員の方から言われました。私たちも、焦って、自分の気持ちばかりが優先してしまっていたことに気づきました。そして、夫婦で立ちどまって前向きに考えることができ、改めて委託を受け入れる決断ができました。

そして、12月に正式に委託をされると、今度は、再度、試練とも言える出来事が起きてしまいました。私が初めてインフルエンザにかかってしまいました。多分、慣れない子育てと、仕事が変わって3カ月目ということもあったので、疲れも重なったのか、まさかの出来事でした。そして、私から、次の日には妻、その約3日後にM君のほうにうつってしまい。最後には、義理の母親にまで感染してしまいました。

それだけでは終わらずに、私が会社に復帰して、約2日後、さらに私が感染型の肺炎にかかってしまいました。また感染してしまうのではないかと怖れた私たちは、児童相談所にすぐ連絡をして、緊急でレスパイトという、別の里親さんのところで子供を預かってもらう制度を利用し、5日間預かっていただきました。本人にも委託早々かわいそうな思いをさせましたが、おかげで肺炎による感染は家族にはなく、本当に相談をしてよかったです。まずは相談をすることが大切なんだなと思いました。

現在、M君はまだ2歳です。社会とのかかわりは少なく、知っている世界も広くはありません。今後、幼稚園や小学校などに行くようになれば、社会とのかかわりの中で偏見や課題も出てくるかもしれません。そして、私たちは、今後、本人に真実告知をするというとても大きな役割が待っています。本人は戸惑うかもしれませんが、私たちの人生を大きく変えて、さまざまな奇跡をもたらしてくれているM君にしっかりと伝えなければなりません。

M君は、生まれてすぐに乳児院に預けられて、その後は、実親とは一度も会っておりません。そんな境遇の中でも、本人が本当に生まれてきてよかった。産んでくれたことに感謝ができる最高の人生を選択して行ってほしいです。私たちは、養育家庭として応援しながら、自立まで見守ることができたらうれしいです。

血のつながりに関係なく、一つ屋根の下で生活を共にしている奇跡を日々感謝して、日々の時間の中できずなを深めていける、そんな家族になりたいと思っています。

今回は、このような場で体験発表をさせていただくことになりまして、改めて夫婦で1年を振り返るいい機会ができましたことを感謝いたします。最後まで聞いていただき、ありがとうございました。

## 17 思春期と向き合う ～短期間で伝える難しさ～

### 【里母】

私は今、高校3年生の女の子を委託されています。7年間フレンドホームをやっていて施設の方からの勧めで、里親になりました。私の年齢的に、小さい子の面倒を見るのは大変だと思い、小学校高学年以上の児童を希望しました。今、預かっている子は、高校1年生に入るときからうちにいます。すごくいいこともたくさんあるのですが、あえて今回は、高校生の女の子を預かった際の驚きをお話ししたいと思います。

預かった当初はまだ中学を卒業したばかりで、何を言ってもけらけら笑う、本当にかわいい、かわいい女の子でした。彼女がうちに来たときに、私は三つ約束をさせました。一つ目は挨拶。二つ目は門限を守ること。誰が何と言おうと、10時までは曲げないよと言ってあります。三つ目は貯金をしておくこと。18歳になってうちを出たときに、お金がないと本人が大変なので、高校3年間で30万円ほど貯金して、これまでの貯金などと合わせて100万円弱は用意しようねということを、私は伝えていました。

うちに来るに当たって携帯が欲しいということで、施設の方が携帯を持たせてくれたのですが、そこからだんだん変わりました。高校1年生の1学期は、家ではずっと携帯の勉強をしていて、学校では携帯を見る時間もないから、仕方ないかなと思いながら生活をしていましたが、まだ普通のかわいい女の子という感じでした。しかし夏休みにバイトを始めて、次第に見た目も生活も派手になっていきました。

高校2年生になってお金遣いが荒くなり、よくもめました。「何で自分の働いたお金で買って、そんな文句言われなきゃいけないの?」と返ってくる言葉が大人と同じ目線で、子供じゃないという状態になってきました。しかし、通帳は私が預かっているのです。ここから先は絶対に使わせないと決め、いただいているお小遣いを本人に渡さず、全部貯金に回しました。「自分がアルバイトをしたお金から、貯金できる額を残しなさい。あなたのお小遣いは貯金用の通帳に入れます。入れた瞬間にちゃんと見せるからね」と言って、通帳を見せるというやり方をしていました。その結果、ちょこちょこですが、彼女は今、しっかりと貯金をしています。

高校3年生の1学期は、化粧は派手なままですが急にいい子になりました。本人は進学じゃなくて、就職に気持ちを変えました。やはり100万円という言葉がすごくネックになっていて、それを基準に考えてしまうと遊べないから、就職に変えたみたいです。ある日、「どうしてもお金を使いたいから、ちょっとお金をおろしてきていい?」と言いました。今までは通帳を渡すと必ず返してくれたのですが、今回は返さなくなってしまい、何回言ってもいまだに返しません。就職も決まり、今、羽を伸ばしている最中です。

委託されてから、いろいろなことがありましたが、この子は私にがみがみ言われながらもめげずに自分なりに考えながら、ちゃんとした人生を歩んでいるなと思います。例えば「私が旅行に行くけど、どうする?主人だけでは、御飯はとてどもまともなものは食べられないよ。」と言うと、「別の里親さんに預けられるのは嫌だ。」というのです。

私に怒られても、何を言っている、やはり家が居場所であって、ここにいて別に不便はないと思って過ごしてくれているんだな、よかったなと思いました。

ただ、高校生を預かるというのは、本当に変化が激しいです。この何年かの子供から大人、まだ大人ではないのですが、本人はもう大人だと考えるようになっていきます。ですから、里親さんになるのであれば、ちょっとでも子供のうちに預かってあげてほしいというのが私の思っていることです。小さいころから預かっていると、その子に対しての言い回しも強くもなりにくいと思います。私の場合は、もっと小さいときから教えておけばよかったことを、すごく短期間に伝えなくてはならないので、どうしても、今教えなきゃいけない、今言わなきゃいけないと考えてしまいます。彼女にとっても、それはすごく負担になっていたと思います。

貯金の話についても、小さいときから育てていたら違ったのではないかなと思います。例えば、高校2年生の夏休みにバイトをして1カ月の給料が11万円のことがありました。私が、「最低でも半分を貯金しなさい。お父さんだってお小遣い3万円だよ。携帯料金を払う何だかんだと考えても、せいぜい使って5万円じゃない。」と言うと、「夏休みにこれだけバイトした理由は、遊びたいからだよ。貯金したいからこんなに無理して働いたんじゃないよ。」と言うのです。それに対して私が「とにかく貯金するから半分持っていらっしゃい。」と言った瞬間に「じゃあ、いいわよ。」と彼女は私に向かってお金を投げつけました。やはり、余りにも期間が短か過ぎて、出会って何カ月もしない間に、「さあ、貯金しろ。あんた、どうすんの、この先。うちにいる期間は3年しかないんだよ。3年の間に幾ら貯めなさい。」と言われても、どう考えたってそんなこと無理ですよ。それを言ってしまった私も、ちょっとかわいそうなことをしたなと思うのですが、でもそれは事実じゃないですか。だから、里親をやってみようかなと皆さんが考えているのであれば、少しでも小さな子供のうちに預かって、時間をかけてその子をじっくり育てていったほうが、お互い、嫌な思いをしないで済むのではないかなと思います。

ただ、大変なこともあります。日常では笑顔で楽しく会話をしています。今朝も洗面所に彼女のスリッパがぼんとハの字に置いてあるのを見つけて、「〇〇ちゃんどうしたの？大丈夫？」とわざと言いました。「えっ、何が？」と彼女が返事をするので、「ひょっとしてあんた歯磨きしている間に誰かに殴られてさらわれたんじゃないかと思った。」と言うと、「何で？」と言うので、「洗面所を見てごらん。ハの字になってスリッパが置いてあるけど、どういうこと？」と。「ごめんなさい、何で私ここにスリッパ脱いだんだらう。」とそんな感じで、笑顔で冗談を言い合っていて、その辺はよかったなと思っています。

もうすぐ、3月になったら解除になってしまいますが、私はこの子がとてもすてきなレディーになって、多少の苦勞はしても、そんなにひどい目に遭わない世の中でこれから生きていってくれたらなと思っています。この子をこうやって見られたことは、私にとってもいい経験だったし、これからも私はまた続けたいと思います。

## 18 ありのままに受け入れる

### 【里母】

今日は、里親家庭でどのように子供たちが過ごしているのか、一時保護での子供との生活やかかわりなどをお話ししたいと思います。昨年は一時保護が5名、現在は高校2年生の女の子が1名います。本当に一時保護は突然で、今からお願いしますということがほとんどです。年齢も事情も期間もさまざまで、当時は2年生と4年生の兄弟、高校1年生の女子、2歳の女の子、中学2年生の女の子をお預かりしました。

いつも思うのは、どの子ども大人に対してすごく警戒心を持っているということです。満たされない何かを埋めるかのように、詰め込むように食べる子もいたりします。特に印象的だったのが、2歳の女の子でした。ぱんぱんになってもまだ足りないと数時間泣くのが当たり前の毎日でした。その時、5歳の娘が本当にお姉ちゃんをしてくれて、遊ぶことへ意識を切りかえてくれました。娘が、これはお姉ちゃんのだよ、これはAちゃんのだよと言うと、納得して我慢することを覚えていってくれるようになりました。娘の幼稚園で行われる未就園児に対するイベントに参加させていただきながら、昼間は外で体を思い切り動かして、夜は8時に電気を消すという、当たり前の習慣をしていると、2週間たったころから次第に笑顔になって、かんしゃくもなくなっていました。

しかし、一時保護の悲しいところは、そこまでののですね。その後、帰っていくと、元気で育ってほしいなと願うことしかできません。でも、その時、たとえ一瞬でも、その子が笑顔になれたことは記憶のどこかに残っているかなと思っています。トラウマの逆で、いい記憶として、愛された記憶として残ってくれたらいいなと思っています。

よく実子がいるのに、なぜ里親を続けるのですかという質問をされるのですが、子供はすごく癒やす力を持っていて、癒やしたことによって、またその子供の力になると、娘を見て感じています。人はやっぱり人の悲しみや痛みを知るからこそ強くなれるし、優しくもなれるのだなと、娘を通していつも勉強させてもらっています。子供はすごく受け入れる力を持っていて、時にそれが本当に大人として忘れてはいけないなということをおぼえてくれます。

出会った時からどれだけ愛情を注げるかがすごく大切だなと感じています。昨年のちょうどこのぐらいの時期に、2年生と4歳の兄弟をお預かりしました。一時保護では、昼間は学校や保育園に行くことができないので、近くの児童館に行ったり公園に行ったりと、夜になったらもう、私のほうがダウンというような日々が続いていました。明るく見えてもすごく我慢していて、夜になると、しくしく布団の中で兄弟で泣いている姿を見ると、少しでも楽しく過ごせるように頑張ろうと思うことができました。

昨年8月に、当時高校1年生の女の子をお預かりすることになりました。彼女はとても複雑な環境下に置かれて、出会ったころは夢も希望も持てず、非現実的なことばかり言っていました。でき上がった子供とのかかわりは、すごく大変で、それまでの生活環境がどうであったかなんて全くわからない状況です。でも、結局は、里親自身が素直に

向き合うことで、自然と距離を縮めていくことができることに気がつきました。出会った時の将来の夢は、「今までにない有名人」と言っていました。正直、何を考えてそう言うのか、理解できませんでした。でも、本人は至って本気で、時間が過ぎていく中で、いろいろありました。最初のころは、正直、困り事だらけでした。そういった時に里親サロンで相談に上げてみると、やはり同じぐらいの年齢のお子さんが、どの子も共通して同じようなことになっているという話を聞きました。解決策は、もう、言い続けることしかないです。1年経過したのですが、見違えるようになりました。安定した環境で時間をかけて向き合うことが、こんなにも心の成長につながるとは、とても驚きました。

彼女が委託されて2カ月ごろ、中学2年生の女の子が一時保護で来ることになりました。保護所が空くまでの数日間ということでした。実父からの虐待で、学校から制服のまま保護されてきました。本当に精神的に不安定で、過呼吸になってしまったり、高校生とうまくやれるか、児童相談所も慎重ではありましたが、それほど保護所やほかの里親さんも空きがない状況だったようです。娘と高校生は、昼間は幼稚園と学校に行くので、中学生と2人で過ごす日々でした。いろんなことを話していくうちに打ち解け、しばらくここにいたいという本人の希望があったので、家庭復帰に向けて調整をするために我が家から地元の中学に通う許可が出ました。2～3日の予定が2カ月という期間になりました。その期間、娘の誕生日があったりクリスマスがあったり、楽しい思い出がたくさんできました。3人でいると本当の姉妹のように毎日にぎやかでした。特別なことをしているわけではありませんが、ありのままに子供を家に受け入れて自然に過ごしていくことが、よい関係性を築いていけるのかなと思います。

もちろん今、日々の生活で困ったなと思うことがたくさんあります。でも、そんな時に、我慢するのではなく、周りに相談することがすごく大切なんだなと思っています。しっかりしたサポートチームがあるので、うまく気持ちを吐き出して、ため込まない。これが長く続けていけるコツなのかなと思っています。

いいところを話してきましたが、実はここ1週間ぐらい、その高校生は今少し、反抗期になっているような感じで、何を話してもつかかかったような言い方をします。私は女同士というのもあって、やっぱりすごくかちんとくることもあるので、こういう時は主人に話をしてもらいます。主人は男性の立場から、自分の社会経験も含めて話をするので、私もなるほどなと思うことがたくさんあります。

あと、里親というのは、何が大事かなと考えてみたのですけれども、やっぱり夫婦が心を合わせてやっていくということかなと思っています。日々、今は本当に心が折れそうになることがあるのですが、隣に主人がいてくれるということはすごく心強いなと思います。夫婦がどんなことがあってもぶれない姿勢というものが子供の心を育てるのかなと感じています。子供にとって大切なのは、いつも笑顔を忘れないこと。夫婦が仲よくしていると、特に何か特別なことをしなくても、子供の心は安定してくるのだなと思っています。



## 19 突然親子として向き合うということ

### 【里父】

家族は妻と私の母と小型犬1匹、そして里子のAちゃん(6歳)とB君(4歳)です。自分は、結婚するまで里親というものを全く知りませんでした。独身のころから里親をしたかったという妻と出会い、新しいことを始めてみるのもいいなと思えるようになっていきました。

Aちゃんは当時、生後10カ月で乳児院にいました。初めて会ったときの印象は、かわいらしいの一言。妻は毎日乳児院に会いに行き、私は週末だけの交流でしたが、案外早く慣れてくれました。よく笑い、活発に動いて、声が大きい女の子でした。そして、欲しいものがあると要求してくる感じには普通以上の強さを感じていました。Aちゃんとの生活の日々はバタバタと過ぎていきました。体が常に動いている感じで、椅子に座っていても、車に乗っても、足はバタつかせているし、目もあちこちきょろきょろ動き続け、あー、あー、あーと大きな声でしゃべり続けることが多い印象でした。食事のときには両手をテーブルに置いてばんばん叩き、両足もぶんぶん振って止まることはありません。タイミングよく間髪入れずに口に入れてあげないと怒る。あげてもあげても、もっともっととせかさされ、ずっと要求されてきりがありませんでした。寝つきが悪く、やっと眠ったと思っても夜中に叫び、パニックのように泣いて起きてしまうことも多く、じっと抱かれてなどいない忙しいAちゃんでしたから、一度そうなるとなだめるのが大変で、再びいつ寝つくのかと気が遠くなりました。感受性が強く、変化に敏感なAちゃんにとって、がらりと環境が変わり、本人も大変な思いをしながら必死だったのだろうと思います。

Aちゃんにどんなふうに接していったらいいのか。自分たちの家庭で安心して心地よく過ごせるようになるのか。落ちつく場所、安心できる場所になりたい。私たちにとって何気なく繰り返してきた日常生活の風景に、自然に溶け込んでほしい、家族になりたいと願っていました。何をどうすればいいのか全くわからず、途方に暮れました。それでも続けてこられたのは何だったのかということ、周りの皆さんに支えられていたからです。一緒に住んでいる私の母も、事あるごとに随分Aちゃんに関わってくれて、助かりました。Aちゃんが寝静まった頃などに、2人でお茶でも飲んでおいでとはからってもらったり、時には妻の母や妹が預かってくれたりしました。児童相談所の方にも相談に乗ってもらったりしました。時に心理司さんがじっくりと話を聞いてくださり、一緒に考えてくださりました。管内の里親会にも顔を出し、仲間ができたことも大きかったと思います。Aちゃんは少しずつでしたが、目を合わせてくれるようになって、手がつなげるようになりました。毎日の生活が手探りで途方に暮れていた時期に比べるとぐっと落ちついてきて、ふとした時に家にいるのに穏やかに過ごせているという時間が訪れるようになってきました。人が自立していくためにはまずしっかりと特定の人に依存し、愛着関係を築いていくことが大切だといいます。普通なら、おなかにいるときから母親

に慈しまれ、話しかけられ、子どもながらに応答し、親子の密接な関係が始まっていると聞きます。生まれてからもお世話をしてもらい、泣いたらあやしてもらい、一对一のしっかりとした関係を築いていくそうです。遅ればせながらも、Aちゃんも時間をかけ、日々母親とのやりとりを通して、母親が一番の存在になったように見られます。そして、今では自然に、自分は大切な存在という意識も出てきているように思います。私たちも同じ時間を過ごす中で、かわいいと思えることが少しずつ増えてきました。

そして、Aちゃんを預かって3年がたち、落ちついてきたころ、2歳になったばかりのB君が我が家にやってきました。B君はAちゃんとは対照的で激しさがなく、いつでもよく笑って、眠ると些細なことでは起きません。Aちゃんも遊び相手ができてとてもうれしそうでした。大人にとっても子どもだけで遊んでくれる時間ができたことはとても画期的なことでした。女の子と男の子なので、遊びの面で合わせてくれるのは、今でも大抵B君です。テレビ番組は女の子向けの番組を一緒に見てくれて、ままごとでは赤ちゃん役を声まで変えて熱演してくれます。また、B君は自然に甘えるのが上手です。甘えるのが苦手なAちゃんも、そんなB君を見て学習し、抱っこされたがる感じがふえていきました。そんなB君も何ヶ月かすると困った面も少しずつ出てきました。遊んでいるかと思ったら、玄関からそっと出ていってしまったり、ベランダで洗濯を干しているママを鍵をかけて閉め出したり、トイレに忍び込んでトイレットペーパーを全部引っ張り出したり、洗面所を水浸しにしたり、また、どうしても長い物を持っているとやたらと振り回し、叩きたくなります。男の子ですから、本能的にもやりたいのですが、危ないから、ぶつかるからと幾ら注意しても聞き入れないところや、何度も繰り返すところが困りました。乳児院になかったものが家庭にはあふれています。電気のスイッチやテレビなどのリモコン、いろいろな家具、引き出しに扉、台所にはガスコンロに調理器具、B君にとっては魅力的なものがいっぱいです。また、B君の場合、お友達のお母さん方やよく知らない人にもベタベタしてしまうところが困るところです。誰に甘えていいのか。優しい人なら誰でもいいのか。どのくらいなら甘えていいのか。その加減には言葉にできない違和感があります。日常の中で一对一になって関われることはなかなか難しくもあるのですが、今でもママと一对一でお風呂に入ったり、眠りについたりなど、折を見て機会をつくるように努めています。たまに、週末と一緒にクッキングをするときなど、楽しそうな顔をしているととても癒やされます。Aちゃんは、パパはお菓子をつくるのが得意だからお店出したらいいのにと言ってくれます。B君は、私がつくった料理を、今日の御飯おいしかったと絶賛してくれます。

私たちは既にいろいろな背景を持ちながらも、懸命に生きる子どもたちと突然親子として向き合っていきます。これからも関わる子どもたちに癒やされたり、戸惑ったり、笑ったり、泣いたりしながら日々の成長を感じつつ、子どもたちが前向きに自分の人生を生きていけるよう、夫婦、家族、先輩方や支援して下さる方々と相談しながら歩みを進め、寄り添っていきたいと思います。

平成29年度 養育家庭体験発表会 参加者数

開催日	開催場所	区市町村	担当児童相談所	参加人数				合計
				養育家庭・ フレットホーム	都区市町村 及び関係職員	民生児童委員 主任児童委員	一般・学生 その他	
平成29年9月3日	シビックセンター4階 シルバーホール	文京区	児童相談センター	6	7	5	49	67
平成29年10月7日	国分寺Lホール	国分寺市	小平児童相談所	7	21	3	42	73
平成29年10月14日	子ども未来センター	立川市	立川児童相談所	2	14	1	18	35
平成29年10月18日	昭島市役所602・603会議室	昭島市	立川児童相談所	5	15	2	11	33
平成29年10月21日	小金井市商工会館 2階大会議室	小金井市	小平児童相談所	3	12	2	12	29
平成29年10月22日	アクロスあらかわ	荒川区	北児童相談所	1	1	3	18	23
平成29年10月22日	中央区教育センター 5階視聴覚室	中央区	児童相談センター	※ 台風のため、中止				
平成29年10月23日	清瀬市児童センター 2階子ども会議室	清瀬市	小平児童相談所	1	13	0	9	23
平成29年10月23日	北沢タウンホール	世田谷区	世田谷児童相談所	0	7	2	33	42
平成29年10月24日	青梅市役所201・202会議室	青梅市	立川児童相談所	3	10	6	13	32
平成29年10月26日	台東区役所10階 大会議室	台東区	児童相談センター	0	12	16	27	55
平成29年10月26日	西東京市住吉会館 2F研修室	西東京市	小平児童相談所	3	13	0	11	27
平成29年10月26日	日野市役所 505会議室	日野市	八王子児童相談所	6	27	4	29	66
平成29年10月27日	三鷹産業プラザ	三鷹市	杉並児童相談所	3	17	4	12	36
平成29年10月28日	市民総合センター3階 集会室	武蔵村山市	小平児童相談所	4	19	1	9	33
平成29年10月31日	奥多摩町子ども家庭支援センター きこりん	奥多摩町	立川児童相談所	3	16	5	9	33
平成29年11月1日	豊島区役所1階センタースクエア	豊島区	児童相談センター	1	7	18	150	176
平成29年11月2日	生涯学習センタークリエイティブホール	八王子市	八王子児童相談所	9	41	2	39	91
平成29年11月7日	調布市文化会館「たづくり」	調布市	多摩児童相談所	5	31	1	17	54
平成29年11月7日	板橋区立グリーンホール	板橋区	北児童相談所	1	3	3	59	66
平成29年11月9日	東久留米市市民プラザ	東久留米市	小平児童相談所	5	19	18	3	45
平成29年11月9日	東大和市市民会館 ハミングホール	東大和市	小平児童相談所	7	47	6	66	126
平成29年11月11日	阿佐ヶ谷地域区民センター	杉並区	杉並児童相談所	5	5	0	11	21
平成29年11月11日	目黒区役所総合庁舎	目黒区	品川児童相談所	0	1	5	31	37
平成29年11月11日	神田さくら館	千代田区	児童相談センター	0	4	1	20	25
平成29年11月11日	くにたち芸術小ホール地下スタジオ	国立市	立川児童相談所	4	12	0	16	32
平成29年11月12日	江東区文化センター	江東区	江東児童相談所	2	2	1	62	67
平成29年11月13日	あきる野市役所 503・504会議室	あきる野市	立川児童相談所	4	11	25	12	52
平成29年11月14日	瑞穂町子ども家庭支援センター ひばり	瑞穂町	立川児童相談所	1	10	12	5	28
平成29年11月15日	中野区役所	中野区	杉並児童相談所	5	1	0	67	73
平成29年11月16日	すみだリバーサイドホール会議室	墨田区	江東児童相談所	2	9	0	29	40
平成29年11月16日	中央文化センター「ひばりホール」	府中市	多摩児童相談所	2	26	0	65	93
平成29年11月17日	武蔵野プレイス	武蔵野市	杉並児童相談所	5	9	3	34	51
平成29年11月17日	東村山市市民ステーションサンバルネ コンベンションホール	東村山市	小平児童相談所	3	10	13	19	45
平成29年11月17日	多摩市子育て総合センター	多摩市	多摩児童相談所	2	12	0	10	24
平成29年11月18日	健康プラザかつしか小ホール	葛飾区	足立児童相談所	5	7	1	14	27
平成29年11月18日	みなと保健所8階 大会議室	港区	児童相談センター	2	3	1	180	186
平成29年11月18日	品川区第一地域センター	品川区	品川児童相談所	0	6	3	21	30
平成29年11月18日	さくら会館	福生市	立川児童相談所	8	12	4	17	41
平成29年11月19日	羽村市コミュニティセンター ホール	羽村市	立川児童相談所	2	13	9	57	81
平成29年11月19日	市民フォーラムホール	町田市	八王子児童相談所	10	2	25	53	90
平成29年11月20日	新宿区子ども総合センター3階研修室	新宿区	児童相談センター	1	19	34	37	91
平成29年11月22日	区立中央図書館 集会室	渋谷区	児童相談センター	1	3	0	13	17
平成29年11月25日	Coconeri(ココネリ)3階第一研修室	練馬区	児童相談センター	3	5	13	40	61
平成29年11月25日	狛江市防災センター	狛江市	世田谷児童相談所	1	12	8	32	53
平成29年11月25日	東部市民センター 1階	小平市	小平児童相談所	4	8	0	22	34
平成29年11月25日	大田区役所	大田区	品川児童相談所	1	1	35	25	62
平成29年11月26日	赤羽文化センター	北区	北児童相談所	3	3	1	47	54
平成29年11月26日	足立こども支援センターげんき 5階研修室	足立区	足立児童相談所	5	21	1	24	51
平成29年11月30日	稲城市地域振興プラザ	稲城市	多摩児童相談所	5	24	2	19	50
平成29年11月30日	日の出町役場3階 第1・2会議室	日の出町	立川児童相談所	5	9	4	11	29
平成29年12月14日	江戸川区文化センター	江戸川区	江東児童相談所	1	38	49	64	152
合 計				167	650	352	1693	2862

平成29年度養育家庭体験発表会アンケート結果

質問	9/3	10/7	10/14	10/18	10/21	10/22	10/22	10/23	10/23	10/24	10/26	10/26	10/26	10/27	
	文京区	国分寺市	立川市	昭島市	小金井市	荒川区	中央区	清瀬市	世田谷区	青梅市	台東区	西東京市	日野市	三鷹市	
①性別	男性	15	5	5	6	3	4		1	6	8	7	0	17	6
	女性	27	40	14	11	8	17		8	30	6	35	11	22	21
	不明・無回答	0	0	1	0	0	0		0	0	0	0	1	4	0
②年齢	～20代	1	19	1	2	5	6		0	11	0	3	2	4	5
	30代	8	3	3	3	0	4		0	3	3	8	1	11	3
	40代	11	11	7	5	3	9		3	7	6	6	4	8	9
	50代	12	5	6	2	2	1		3	10	1	6	4	13	7
	60代	5	5	2	5	1	1		2	1	3	15	1	4	3
	70代～	5	1	1	0	0	0		0	2	1	3	0	2	0
	不明・無回答	0	1	0	0	0	0		1	2	0	1	0	1	0
③所属	一般	23	15	8	4	0	10		1	13	5	9	5	5	5
	民生児童委員	5	2	1	0	1	0		0	0	2	13	0	1	4
	主任児童委員	0	1	0	2	0	3		0	2	0	3	0	3	0
	養育家庭	6	2	1	2	2	1		0	1	0	0	2	3	2
	フレッドホーム	0	0	0	0	2	0		0	0	0	0	0	0	0
	都職員	1	1	3	3	0	0		0	0	3	0	0	1	1
	区市町村職員	4	0	1	1	0	1		1	1	0	7	3	16	6
	施設・関係団体職員	2	1	5	1	2	0		0	6	4	5	1	7	7
	学生	1	20	0	2	4	6		0	9	0	1	1	0	2
	その他	0	2	0	1	0	0		6	3	0	1	0	6	0
	不明・無回答	0	1	1	1	0	0		1	1	0	3	0	1	0
2. 養育家庭制度を知っていましたか？(複数回答不可)															
はい	36	36	19	16	11	17		8	32	13	28	10	36	25	
いいえ	6	9	1	0	0	4		0	4	1	9	2	6	0	
不明・無回答	0	0	0	1	0	0		1	0	0	5	0	1	2	
3. 養育家庭制度を知った経緯(複数回答可)															
区報・市報・ホームページ	19	10	5	7	6	5		1	9	4	16	5	16	12	
ポスター	8	1	1	3	0	3		0	6	4	4	1	5	7	
児相・子ども家庭支援センター	10	11	10	7	3	3		7	9	7	11	3	17	13	
児童福祉施設	1	3	6	3	2	1		2	3	8	2	1	10	11	
インターネット	4	4	0	1	3	5		0	6	2	2	1	1	4	
テレビ番組	3	4	1	3	0	3		1	2	1	5	1	4	1	
テレビCM	2	0	0	0	0	0		0	0	1	1	0	0	1	
ラジオ	0	0	0	0	0	0		0	0	0	0	0	0	0	
新聞・雑誌	3	3	2	1	2	1		0	1	1	2	0	4	1	
知人・友人	3	7	3	1	1	3		1	2	2	2	0	7	2	
図書	1	1	0	2	1	1		1	1	0	0	0	1	0	
公開講座	1	12	1	4	2	3		2	8	1	6	1	2	3	
その他	8	5	0	0	1	4		1	8	1	6	1	2	2	
不明・無回答	0	8	1	3	0	2		0	0	2	0	2	7	0	
4. どこで、この体験発表会をお知りになりましたか？(複数回答可)															
区報・市報	11	5	3	7	0	5		3	6	5	13	1	12	7	
都報	2	1	1	0	2	0		0	3	2	5	1	3	1	
ポスター	9	1	0	0	0	1		0	2	1	2	0	2	3	
体験発表会チラシ	15	17	6	7	1	9		1	16	6	13	1	19	9	
インターネット・HP	3	5	2	0	4	2		0	5	2	1	2	2	5	
知人に勧められて	1	6	4	1	0	4		2	3	1	1	3	0	1	
過去に参加	5	2	1	4	0	1		2	4	3	1	0	6	9	
行政機関への問合せ	4	1	0	0	1	0		0	1	0	2	0	1	0	
その他	5	10	2	4	4	4		3	8	3	9	3	10	6	
不明・無回答	0	1	2	2	1	1		0	0	1	0	1	3	0	
5. 今日の体験発表会にいらした動機をお聞かせください。(複数回答可)															
養育家庭制度に興味・関心があったから	30	20	14	8	7	11		2	23	6	1	8	17	13	
子育てに関わる話が聞けると思ったから	13	8	3	7	3	9		5	13	5	15	1	17	10	
仕事や学問などの参考にするため	9	30	12	7	6	8		4	16	8	24	2	23	12	
養育家庭になりたいと思っていたから	5	6	5	1	2	0		0	7	2	18	1	2	5	
その他	6	2	1	2	2	0		2	3	1	5	1	4	2	
不明・無回答	0	0	0	3	0	0		0	0	1	0	1	1	0	
6. 今日の体験発表会の感想をお聞かせください。															
とても良かった	27	32	13	12	10	18		6	29	7	24	10	22	17	
良かった	14	12	5	4	1	1		3	6	5	13	2	15	6	
普通	1	0	0	0	0	0		0	0	0	0	0	2	0	
あまり良くなかった	0	0	0	0	0	0		0	0	0	1	0	0	0	
良くなかった	0	0	0	0	0	0		0	0	0	0	0	0	4	
不明・無回答	0	1	2	1	0	2		0	1	2	4	0	4	0	
その他感想数	18	22	10	11	5	15		6	24	8	17	5	21	9	
アンケート回答	42	45	20	17	11	21		9	36	14	42	12	43	27	
参加者総数	67	73	35	33	29	23		23	42	32	55	27	66	36	
住所氏名の記述数	7		7	0	3	8		1	13	2	4	3		4	

※台風のため中止

平成29年度養育家庭体験発表会アンケート結果

質問	10/28	10/31	11/1	11/2	11/7	11/7	11/9	11/9	11/11	11/11	11/11	11/11	11/12	
	武蔵村山市	奥多摩町	豊島区	八王子市	調布市	板橋区	東久留米市	東大和市	杉並区	目黒区	千代田区	国立市	江東区	
①性別	男性	8	6	11	13	5	4	3	11	2	4	2	1	10
	女性	4	12	61	44	33	60	17	32	16	25	11	6	30
	不明・無回答	0	0	0	0	0	0	2	2	1	1	0	0	0
②年齢	～20代	4	1	12	17	5	10	1	2	2	16	2	1	11
	30代	2	1	8	4	6	7	1	6	8	1	2	1	7
	40代	3	4	10	20	15	25	2	15	0	6	4	1	11
	50代	2	4	14	12	8	12	3	11	6	5	2	4	8
	60代	0	7	14	3	3	4	8	8	3	1	2	0	2
	70代～	0	1	6	0	0	5	6	3	0	1	1	0	1
	不明・無回答	1	0	8	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0
③所属	一般	2	5	12	7	8	23	2	28	7	6	5	4	23
	民生児童委員	0	5	15	2	0	0	15	1	0	1	1	0	0
	主任児童委員	0	0	3	0	1	3	2	0	0	4	0	0	1
	養育家庭	0	1	1	5	0	1	0	2	5	0	0	0	2
	フレッドホーム	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	1	0
	都職員	0	4	0	1	0	1	0	0	1	0	0	0	1
	区市町村職員	1	2	5	26	11	2	0	2	2	0	4	0	1
	施設・関係団体職員	5	0	2	5	11	3	2	4	2	1	0	2	0
	学生	3	0	13	8	1	9	0	0	0	17	1	0	9
	その他	1	1	7	2	2	15	1	5	1	1	2	0	3
	不明・無回答	0	0	14	1	1	7	0	3	1	0	0	0	0
2. 養育家庭制度を知っていましたか？(複数回答不可)														
はい	10	17	61	46	36	52	20	31	18	24	11	6	38	
いいえ	2	1	8	10	2	12	2	13	1	6	2	1	2	
不明・無回答	0	0	3	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	
3. 養育家庭制度を知った経緯(複数回答可)														
区報・市報・ホームページ	1	8	26	13	14	13	7	13	9	6	1	1	10	
ポスター	1	4	2	6	1	5	1	7	0	1	2	1	2	
児相・子ども家庭支援センター	2	11	18	13	15	16	8	9	8	5	0	3	3	
児童福祉施設	3	4	4	10	14	5	3	8	2	3	0	3	0	
インターネット	2	0	6	1	5	5	0	6	4	5	1	1	4	
テレビ番組	0	2	3	3	4	9	1	6	1	0	0	0	3	
テレビCM	0	0	0	1	2	2	0	1	0	0	0	0	0	
ラジオ	0	0	1	0	1	0	0	2	0	0	0	0	0	
新聞・雑誌	0	1	3	4	4	7	0	3	2	0	4	1	1	
知人・友人	0	4	2	9	2	14	1	2	0	2	2	0	6	
図書	0	0	1	1	3	0	0	2	0	1	0	1	4	
公開講座	1	0	0	7	4	8	2	0	0	7	0	0	6	
その他	5	1	11	6	7	9	5	4	4	8	2	1	10	
不明・無回答	1	1	0	2	0	0	1	12	1	7	5	2	0	
4. どこで、この体験発表会をお知りになりましたか？(複数回答可)														
区報・市報	2	9	11	9	8	8	5	14	2	2	4	1	7	
都報	0	0	3	1	2	1	1	6	1	2	0	1	3	
ポスター	2	0	3	10	1	0	1	13	1	2	2	1	6	
体験発表会チラシ	2	7	11	18	13	17	6	7	6	9	4	2	11	
インターネット・HP	2	0	5	3	4	3	0	4	3	6	1	2	10	
知人に勧められて	1	1	7	4	3	9	0	4	1	2	2	1	8	
過去に参加	1	4	15	6	7	8	8	1	3	4	2	2	2	
行政機関への問合せ	0	0	1	0	0	0	3	0	1	0	0	0	1	
その他	5	3	15	17	9	29	4	5	5	13	2	1	8	
不明・無回答	0	1	0	6	0	1	0	1	1	1	0	1	0	
5. 今日の体験発表会にいらした動機をお聞かせください。(複数回答可)														
養育家庭制度に興味・関心があったから	8	9	39	14	23	34	8	16	11	11	11	2	30	
子育てに関わる話が聞けると思ったから	1	8	17	18	7	23	12	18	4	8	2	3	4	
仕事や学問などの参考にするため	8	7	24	33	18	17	7	10	4	15	6	3	10	
養育家庭になりたいと思っていたから	1	2	5	2	9	6	2	3	6	1	1	0	4	
その他	0	1	6	4	1	12	3	12	2	3	1	1	1	
不明・無回答	0	1	0	5	0	2	2	5	1	2	0	0	0	
6. 今日の体験発表会の感想をお聞かせください。														
とても良かった	9	17	40	31	25	36	13	29	14	19	9	6	30	
良かった	3	0	15	18	10	20	7	11	5	7	4	0	9	
普通	0	0	1	3	0	3	0	2	0	0	0	0	1	
あまり良くなかった	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	
良くなかった	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
不明・無回答	0	1	16	5	3	5	2	2	0	4	0	1	0	
その他感想数	5	8	38	24	22	40	13	28	13	15	3	2	18	
アンケート回答	12	18	72	57	38	64	22	45	19	30	13	7	40	
参加者総数	33	33	176	91	54	66	45	126	21	37	25	32	67	
住所氏名の記述数	1	3	8		3	11		2	6	5	3	1	9	

平成29年度養育家庭体験発表会アンケート結果

質問	11/13	11/14	11/15	11/16	11/16	11/17	11/17	11/17	11/18	11/18	11/18	11/18	11/19	11/19	
	あきる野市	瑞穂町	中野区	墨田区	府中市	武蔵野市	東村山市	多摩市	葛飾区	港区	品川区	福生市	羽村市	町田市	
①性別	男性	13	1	18	6	4	4	2	2	3	8	6	7	20	5
	女性	23	13	29	23	42	30	25	16	13	22	21	12	32	52
	不明・無回答	3	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1
②年齢	～20代	2	1	27	1	5	2	3	4	2	5	14	4	5	22
	30代	1	0	4	8	19	9	4	4	1	4	2	0	3	3
	40代	7	3	6	7	11	12	4	6	3	10	5	5	20	4
	50代	8	2	8	10	8	6	4	1	5	9	4	3	12	10
	60代	17	7	2	3	3	4	9	3	2	1	2	3	6	14
	70代～	3	2	0	0	0	1	3	0	3	1	0	4	6	2
	不明・無回答	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	3
③所属	一般	6	1	12	16	29	20	8	9	7	17	3	5	34	7
	民生児童委員	21	10	0	0	0	0	7	0	1	1	1	3	8	16
	主任児童委員	3	1	0	0	0	2	3	0	0	0	2	0	0	4
	養育家庭	1	0	5	2	1	1	1	0	3	2	0	5	1	5
	フレッドホーム	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
	都職員	1	2	0	1	1	1	0	2	0	0	0	1	0	1
	区市町村職員	3	0	0	3	7	2	1	3	0	2	4	0	4	0
	施設・関係団体職員	2	1	0	5	4	6	4	4	1	1	2	4	1	3
	学生	1	0	28	0	1	0	1	0	2	3	13	0	1	21
	その他	0	0	1	2	3	1	2	0	1	4	1	0	3	0
	不明・無回答	1	0	1	0	1	1	0	0	0	0	1	1	1	1
2. 養育家庭制度を知っていましたか？(複数回答不可)															
はい	36	14	35	23	30	29	25	14	16	0	23	18	51	49	
いいえ	1	1	9	6	15	5	2	4	0	0	4	1	2	6	
不明・無回答	2	0	3	0	2	0	0	0	0	30	0	0	0	3	
3. 養育家庭制度を知った経緯(複数回答可)															
区報・市報・ホームページ	23	8	7	7	5	14	10	2	6	8	6	7	15	19	
ポスター	7	4	1	2	4	3	5	0	1	1	2	2	6	4	
児相・子ども家庭支援センター	20	7	5	7	7	11	9	5	4	12	7	8	16	0	
児童福祉施設	12	2	4	3	3	6	6	4	2	2	0	5	6	4	
インターネット	0	0	4	4	4	2	0	1	1	3	0	0	3	2	
テレビ番組	6	3	5	5	5	6	3	0	2	0	2	0	6	5	
テレビCM	1	2	0	1	1	2	1	1	0	0	0	0	1	0	
ラジオ	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
新聞・雑誌	5	2	2	1	1	4	0	1	1	3	0	0	6	3	
知人・友人	3	1	4	0	2	3	4	2	0	6	1	1	11	4	
図書	0	2	0	1	0	1	1	0	0	1	1	0	2	3	
公開講座	5	0	17	1	2	0	3	3	4	2	7	0	4	13	
その他	8	3	4	5	7	3	2	3	0	3	8	3	21	12	
不明・無回答	2	1	7	0	7	4	2	0	1	0	3	2	4	7	
4. どこで、この体験発表会をお知りになりましたか？(複数回答可)															
区報・市報	13	8	8	11	7	9	11	3	8	4	3	1	13	14	
都報	1	2	1	3	2	2	1	2	0	4	0	0	0	6	
ポスター	3	2	0	1	9	7	3	1	3	2	0	0	2	3	
体験発表会チラシ	20	8	5	9	6	10	5	4	5	8	12	11	26	23	
インターネット・HP	0	0	2	3	9	5	1	1	3	6	2	0	0	3	
知人に勧められて	6	0	4	1	3	6	3	1	2	6	4	3	5	2	
過去に参加	13	3	11	2	2	5	4	1	4	4	1	7	13	7	
行政機関への問合せ	1	2	0	1	2	0	2	0	0	0	0	0	1	2	
その他	8	3	18	7	9	2	2	8	1	5	6	2	16	14	
不明・無回答	1	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	1	
5. 今日の体験発表会にいらした動機をお聞かせください。(複数回答可)															
養育家庭制度に興味・関心があったから	26	7	14	26	10	19	12	6	10	16	12	8	28	22	
子育てに関わる話が聞けると思ったから	19	6	8	11	23	19	13	4	4	12	4	10	25	14	
仕事や学問などの参考にするため	16	6	26	6	18	7	12	8	3	9	17	9	10	30	
養育家庭になりたいと思ったから	4	1	2	4	2	4	2	1	2	2	1	2	1	4	
その他	3	2	3	3	8	3	0	4	2		2	2	7	8	
不明・無回答	2	1	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	
6. 今日の体験発表会の感想をお聞かせください。															
とても良かった	33	9	24	22	11	15	18	13	9	21	21	18	32	41	
良かった	5	6	14	4	26	9	5	5	5	6	2	1	20	12	
普通	0	0	0	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	1	
あまり良くなかった	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	
良くなかった	0	0	9	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
不明・無回答	1	0	0	1	9	8	3	0	2	3	4	0	1	4	
その他感想数	22	10	14	22	14	13	14	11	11	17	15	14	19	22	
アンケート回答	39	15	47	29	47	34	27	18	16	30	27	19	53	58	
参加者総数	52	28	73	40	93	51	45	24	27	186	30	41	81	90	
住所氏名の記述数	8	3	5	12	6	5	4	5	6	8	1	1	4		

平成29年度養育家庭体験発表会アンケート結果

質問	11/20	11/22	11/25	11/25	11/25	11/25	11/26	11/26	11/30	11/30	12/14	総計	
	新宿区	渋谷区	練馬区	狛江市	小平市	大田区	北区	足立区	稲城市	日の出町	江戸川区		
①性別	男性	8	2	6	6	7	11	8	3	9	1	33	356
	女性	53	11	41	35	16	33	36	22	25	16	95	1,337
	不明・無回答	0	0	0	1	0	3	1	0	0	0	2	26
②年齢	～20代	3	1	4	22	11	2	22	9	6	1	4	325
	30代	5	2	13	0	2	1	7	2	7	1	11	217
	40代	9	7	8	5	3	6	7	4	5	6	36	404
	50代	17	2	11	5	4	9	5	6	5	1	31	349
	60代	19	1	10	5	3	17	2	2	8	4	37	287
	70代～	8	0	1	3	0	12	2	1	3	4	8	106
	不明・無回答	0	0	0	2	0	0	0	1	0	0	3	31
③所属	一般	5	6	19	7	8	5	15	7	11	7	18	517
	民生児童委員	26	0	8	5	0	30	0	3	2	2	45	258
	主任児童委員	8	0	5	1	0	5	1	1	0	2	4	70
	養育家庭	1	1	2	2	2	1	3	1	2	4	1	86
	フレッドホーム	0	0	1	0	0	0	0	0	2	0	0	10
	都職員	2	0	1	0	0	0	1	1	1	1	1	39
	区市町村職員	8	0	2	1	1	1	2	2	10	0	32	185
	施設・関係団体職員	9	3	3	4	2	0	3	3	0	1	5	149
	学生	1	0	3	21	10	2	19	7	5	0	1	247
	その他	1	3	3	1	0	3	1	0	0	0	19	109
	不明・無回答	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	4	49
	2. 養育家庭制度を知っていましたか？(複数回答不可)												
はい	56	12	41	35	20	42	34	23	24	14	101	1,422	
いいえ	5	1	6	4	3	5	10	2	8	2	27	233	
不明・無回答	0	0	0	3	0	0	1	0	2	1	2	64	
3. 養育家庭制度を知った経緯(複数回答可)													0
区報・市報・ホームページ	22	7	20	7	2	22	11	7	11	6	56	545	
ポスター	5	3	5	1	4	4	2	0	2	3	15	162	
児相・子ども家庭支援センター	23	3	14	10	1	14	9	8	6	7	37	472	
児童福祉施設	9	5	5	6	3	7	4	2	3	3	13	231	
インターネット	2	2	3	2	3	7	4	1	4	0	9	134	
テレビ番組	5	1	7	2	4	5	3	0	4	2	21	163	
テレビCM	1	0	3	0	0	1	0	0	0	0	4	30	
ラジオ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	
新聞・雑誌	4	0	5	2	3	4	0	0	3	2	13	116	
知人・友人	6	0	2	2	1	3	3	1	3	0	6	147	
図書	0	2	3	1	2	2	1	0	5	0	4	54	
公開講座	6	1	3	21	5	4	6	5	3	0	7	203	
その他	11	0	8	5	4	10	9	3	2	4	20	270	
不明・無回答	0	0	0	3	4	0	0	3	0	4	0	111	
4. どこで、この体験発表会をお知りになりましたか？(複数回答可)													0
区報・市報	10	3	10	0	1	8	5	5	11	6	33	365	
都報	0	1	2	1	0	1	0	0	1	0	6	78	
ポスター	2	0	2	2	3	2	1	0	1	2	4	118	
体験発表会チラシ	19	4	16	15	10	8	18	9	6	6	22	518	
インターネット・HP	3	5	5	1	3	1	7	4	6	0	4	150	
知人に勧められて	1	1	4	3	5	4	7	1	5	2	6	153	
過去に参加	8	1	7	6	3	9	2	2	4	4	13	237	
行政機関への問合せ	3	0	2	0	2	1	0	0	0	0	1	36	
その他	26	3	14	16	4	25	10	10	4	1	33	434	
不明・無回答	0	0	0	3	0	0	0	0	0	1	0	36	
5. 今日の体験発表会にいらした動機をお聞かせください。(複数回答可)													0
養育家庭制度に興味・関心があったから	31	8	17	10	15	27	22	16	20	7	58	823	
子育てに関わる話が聞けると思ったから	17	1	25	10	3	13	6	9	10	10	47	557	
仕事や学問などの参考にするため	24	6	12	23	12	11	23	10	13	2	55	691	
養育家庭になりたいと思っていたから	1	2	2	0	1	2	2	1	4	0	3	146	
その他	4	1	3	3	0	7	5	4	0	4	13	169	
不明・無回答	0	0	0	3	0	0	0	0	0	1	0	36	
6. 今日の体験発表会の感想をお聞かせください。													0
とても良かった	34	13	19	34	18	36	23	21	21	15	88	1,114	
良かった	25	0	15	5	5	8	15	3	11	2	37	442	
普通	2	0	2	0	0	1	4	0	1	0	0	28	
あまり良くなかった	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	
良くなかった	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	15	
不明・無回答	0	0	11	3	0	2	2	1	1	0	5	117	
その他感想数	29	5	19	9	12	35	17	18	18	7	72	859	
アンケート回答	61	13	47	42	23	47	45	25	34	17	130	1,719	
参加者総数	91	17	61	53	34	62	54	51	50	29	152	2,862	
住所氏名の記述数	9	6	6	1	3	6	6	4	7	0	18	238	

**養育家庭制度は、いろいろな理由で親と一緒に暮らすことのでき  
ない子供たちを、養子縁組を目的としないで、家庭に迎え一緒に生  
活し、養育していただく里親制度です。**

**【養育家庭(ほっとファミリー)を、詳しく知りたい。】**

**★ 申し込み資格は？**

○平成30年10月1日以降の申請から以下の要件になります。

- ・ 都内在住の夫婦で健康な方。  
配偶者がいない場合は、子供を適切に養育できると認められ、かつ起居を共にし、主たる養育者（申込者本人）の補助者として関与することができる、成人の親族等がいること。（子供を適切に養育できると認められる特段の事情がある場合は除く。）
- ・ 申込者の家庭及び住居の環境が、家族の構成に応じた適切な環境であること。

※その他詳しい要件はお問い合わせ先にご確認ください。

**★ どのような子供を預かるの？**

○ 親の離婚、家出、病気、虐待等の理由で、親と一緒に暮らすことができない、おむね18歳までの子供です。

**★ 預かる期間は？**

- 原則として1か月以上です。
- 2年を超える場合、2年ごとに子供を継続して預かるかどうかの意思を確認させていただきます。

**★ 養育に係る費用は？**

- 日常生活や教育費などの養育費は、児童養護施設等に入所している児童と同等の額が支払われます。
- 養育家庭への手当が支払われます。

**★ 養育に必要な支援は？**

- 児童相談所が中心となって支援を行います。
- 養育に疲れた場合には、子供の養育から一時的に離れて休息できる制度があります。
- ほっとファミリー同士が集う相互交流の機会があります。
- 経験豊富なほっとファミリーが電話で相談に応じます。
- 研修などに参加し、養育に必要な知識を学ぶことができます。

**【養育家庭制度に関するお問合せ先】**

東京都福祉保健局 少子社会対策部 育成支援課 里親担当

〒163-8001 新宿区西新宿二丁目8番1号

電話 03-5320-4135

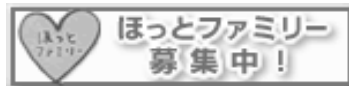
<http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/kodomo/satooya/seido/hotfamily/index.html>





こちらのホームページもご覧下さい。

<http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/kodomo/satooya/seido/hotfamily/index.html>



養育家庭体験発表集  
平成30年9月発行


登録番号(30)131

発行 東京都福祉保健局少子社会対策部育成支援課  
東京都新宿区西新宿二丁目8番1号  
電話03(5320)4135 ファクシミリ03(5388)1406  
印刷所 東京コロニー 東京都大田福祉工場  
東京都大田区大森西二丁目22番26号  
電話03(3762)7611

石油系溶剤を含まないインキを使用しています。



古紙パルプ配合率70%再生紙を使用しています

リサイクル適性 

この印刷物は、印刷用の紙へ  
リサイクルできます。